

JUMP COMICS



めだか

ボウケン

JO
DIGITAL

JUMP COMICS

20

『鶴喰景』

原作

漫画

西尾維新

暁月あきら

20

SHUEISHA

★この作品はフィクションです。実在の人物・
団体・事件などには、いっさい関係ありません。

JUMP COMICS 



20

『鶴喰景』

原作

西尾維新

漫画

暁月あきら

CHARACTERS

キャラクター & ストーリー

STORY

黒神めだか



生徒会長
人吉善吉



書記
鰐塚処理



副会長
名瀬天歌



会計
江迎怒江



庶務
虎居 碎

箱庭学園
第百代
生徒会執行部



球磨川 禊



安心院 なじみ



不知火 半纏



不知火 半袖



鶴喰 鴟



贅波 生煮



獅子 目言彦



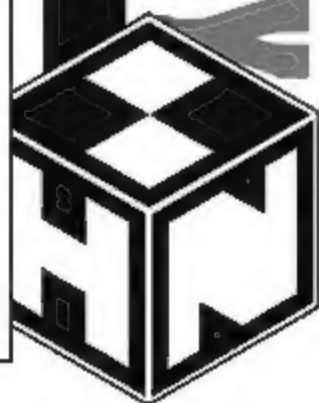
帯



MEDAKA
BOX

久々に箱庭学園での平穏な日々に戻ったある日、不知火半袖が「なかった」ことに。その手がかりを知る安心院を訪ねたため、学園を去ったことを知る。半袖を追って不知火の里へ向かった一行の前に、彼女の奪還を阻止せんと現れた獅子目言彦。その圧倒的な力になす術もなく、安心院が盾となり、めだか達は辛くも里を脱出する。半袖を連れ戻すことを決意したため、めだかは父・舵樹に会い、獅子目言彦に唯一対抗できる「スタイル」の創始者・鶴喰梟の行方を問うが…!?

STORY
ストーリー



MEDAKA

CONTENTS

20

第168箱	「たった一度の不公平だ」	7
第169箱	「箱庭病院跡地」	27
第170箱	「鶴喰梟」	49
第171箱	「あたしは嘘をつき過ぎた」	69
第172箱	「ろりろりよ♪」	89
第173箱	「『歌』とはなんだ？」	109
第174箱	「嘘が嫌いなんだ」	129
第175箱	「正喰者」	151
第176箱	「許す」	171



BOX

おいおい
隣の奴
一時間目から
早弁してるよ

腹ペコキヤラかよ
痛い奴だなあ

これから始まる
俺の華やかな
高校生活のためには

こういう奴とだけは
関わらないように
しないと……

もっしゅ

もっしゅ

第168箱

いちどふこうへい
「たった一度の不公平だ」

やつほー
球磨川くん

きみが今この教室で
僕と会っていると
いうことは

僕はきつともう
死んでいるのだ
ろうね







やれやれ
これで授業に
集中――

おやつと
食い終わったのか



しかし
食い続けるなあ
こいつ

ちょっと前までの
めだかちゃんばりの
食べっぷりだな

見ていて
気持ちよくは
あるよな

もむ

もむ

もむ



まだ
食うのかよ!!



デザートに
おにぎりを食べる
ことも知っているぞ

このあとこいつが
更に五・六箱
お弁当を取り出す
ことも知っているし

いや
知ってるっ
つか

憶えているっ
つか……



……ん？
あれでも俺

こいつが重箱を
取り出すことを
あらかじめ
知ってたような？



…見えないけれど
きみの行動は
なんとなく読めるので

とりあえず
ここでキックを
出しておくよ

当たっていれば
ご喝采だ

さてなにせ
三兆年も
生きたからね

僕には死んでも
残すような未練は
ないのだが

しかしながら
遺産を残して
おくことにする

僕が生きた
証だ

受け取ってくれ
球磨川くん

「……」

つまりこれ
走馬灯みたいな
ものか？

不知火との出会いを
再体験するなんて…

俺からすりや
傷口をえぐられる
ようなもんじゃねえか

この頃からもう
こいつは仕事に
入ってるんだろ？

俺が感服したこの見事な
健啖っぷりも結局

食断ちを始めた
めだかちゃんの代わりに
食べているだけで

ってんなわけあるかい(怒)!!

めだかちゃんの
代わりに食べたから
なんだってんだよ!

その結果一体
何が起るんだ!

影武者としてその行為に
どんな意味があるんだよ!!

もっしゅ

もっしゅ

よしんば意味が
あったとしても
明らかに楽しそうに
いただきます
ごちそうさまと

不知火はいつも
ご飯をおいしそうに
食べてたじゃねえか!

…ああそうだ
仕事だろうと
なんだろうと

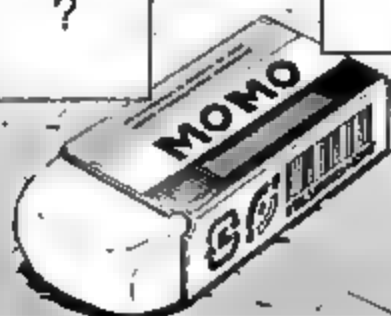
不知火はちゃんと
箱庭学園を
楽しんでたんだ

だったら本当に
小さなことだよな

不知火が俺のことを
友達とも何とも
思っていなかった
ことなんて――

……
消しゴム……

消しゴム？



ああそうか
そうそう思い出した

この先の展開を
思い出した

俺がこの消しゴムを
拾って――
それがきっかけで
こいつと話すように
なったんだ

まそれは
不知火の作戦
だったわけだが

まじ

まじ

まじ

わざと消しゴムを落として
めだかちゃんの幼馴染みである
俺に接近しようという――



……あれ？じゃあ
もしも俺が今

この日
この消しゴムを

拾わなかったら
どうなるんだ？



本当は「一京」のスキルを
すべてプレゼント
したかったんだけど

吟味した結果
球磨川くんが
使えるようなスキルは
ふたつしかなかった

なので
そのふたつを
受け取ってくれ

ひとつは
言わずもがな
「手のひら返し」だ

それを合成して
「劣化大嘘憑き」の
劣化を止めなさい

もうひとつは
——あはは

蓋を開けての
お楽しみにして
おくかな

「あいつらに
勝ちたい」

んだらう？

その言や
よし

めだかちゃんや
人吉くんじやなく
遺産をきみに
残すのは

僕からの
応援の証だと
思っておくれ

「劣化大嘘憑き」
憑平等のこの横が行う
たった一度の
不公平だ

勝たないと
承知しないぜ
球磨川くん

「……
安心院さん」

「確かに僕は
「勝ちたいと
言ったし」

「勝ちたいよ」





負け犬の
遠吠えなんて
聞こえない

なるほど球磨川くん
きみは生まれながらの
敗北者かもしれない

そういう星の下に
生まれついているのかも
しれない

だけどそんな奴が
勝つたらいけないと
誰が決めた？



「……」
「誰かが決める
ことじゃない」
「決まってること
なんだよ」

「全知全能の
安心院さん」

「きみには
わからないかも
しれないけど……」

聞こえない——
ところで

その下にきみが
生まれついたという
敗北の星は
どれなのかな？



あの星かな？
あの星かな？

それとも
不気味に光る
あの星かな？

「いや知らないよ
そんなの……」

「まあその星で
いいんじゃないの？」

「って答えても
どうせ聞こえない
んだろうけど……」



絶望を知る者に
とってきみは
希望の星なんだぜ

きみの勝利が
弱者にどれほど
勇気を与えるか

ちゃんと
考えたまえ。

きみが
弟のように
可愛かった

「勝ちたい」と
「勝てる」は

きつと
一緒だよ

…もしも俺が
この消しゴムを
拾わなくても

不知火は
別のルート
を使って

めだかちゃんと
接点を
持つだろう

だからこの消しゴムを
拾う必要なんてない

なにも歴史が
かわるわけじゃない

俺と不知火が
無関係の没交渉に
なるだけで――



傷つかないでね
人吉くん

あたしがお前を
友達とみなすのも
思っただいぐらいの
ことで

ああそっかい

俺は！
お前を！

友達だと
思ってたよ！！

おいおい！俺の前に
消しゴムを落とすとは
これは挑戦状と受け取って
いいんだな！

カツ！俺が中学時代
ケシオトを極めし男
略して消し男と呼ばれて
いたと知らんらしい

よし受けて立つぜ
だが明日まで待て
マイ消しゴムを
用意する！

俺は人吉善吉
お前は誰だ！？



ぷっ



ぽろ



あひやひやひや！
なんだお前
すごい馬鹿が
こんにちは消し男！

おもしろい
面白れー！
なかよく
仲良くしようね
人吉！

えーつと
あたしの
名前はねー



知っているよ

お前の名前は

不知火半袖だ

俺達は今から

友達に
なるんだ



二人とも
ようやく
お目覚めか？

では貴様達
五秒で着替えろ
出発するぞ

めだかちゃん…

まさか
俺達おれたちが起きるのを
待つててくれたのか…!?

まさかなものか
当然当然だろう

貴様達きさまたちが
必要ひつようだ

助けてくれ

もっとも。
たった一度の敗北はいてくで
怖気おそづいて

心が折れたと
いうのならば
話は別だが…

怖気おそづく？
カツ！

めだかちゃん
俺おれがこの世で
怖いのは

お前の露出癖と
不知火の食欲
だけだよ

「一度の敗北はいてくで
折れるような
心を」

「めだか
ちゃん」

「球磨川くまがわは
持つてないんだよ」



よろしい。

それじゃ
みんなで

こえ
声を揃えて
い
言ってみようか



獅子目
言彦を

き
今日中に
叩き潰す!!



それで
いきなり
不知火の里に
乗り込むのか
めだかちゃん？

否親父殿に
不知火の次の
「役」を聞いてきた

だからまず
は里の外で不知火を
保護して

それを追って来た
言彦を迎撃する
という戦略を取る



いいじゃねえか
……だけど
あのお父さんが

よく
めだかちゃんに
そんなことを
教えてくれたな……

……

「……それで？」
「めだかちゃん」

「不知火ちゃんの次の役」
「……っていうのは
誰の影武者なんだい？」



鶴喰泉

私の
もうひとりの
父親

の影武者だ——
その潜伏場所も
ちゃんと聞き出してきた

奥博士……
漆黒宴をいのように
かき回した
死人か……

なんか変な……
つつーか

嫌な因縁を
感じるな……

ああ…そして
説明が前後したが

私は奥博士からは
スタイルを教えて
もらうつもりだ

はあ!?
スタイルって
お前の元婚約者が
使ってた…

っていうか
そもそも
めだかちゃんと
奥博士って…

みなまで言うな
善吉—それでも
スタイルの習得は

言彦を
倒すためには
不可欠なのだ

で…
どこのなの?

奥博士が
現在潜伏してる
場所は…

え? お前一緒に
聞いてきたんじや
ないの!?

ていうかなんて
お前一緒に
いるの!?

うるさい

お前に喋られた
ことは別に覚えて
ないぞ

奥博士の
潜伏場所
それは

黒神めだかの
始まりの場所

廃病院
箱庭病院跡

鶴喰梟は
今もあそこで

私の研究を
続けている

ペシッ

ケシオト
マジで強え。



だい
第169箱

はこ
「箱庭病院跡地」



めだか
ボックス

はいそれじゃあ
とつぷりと日も
暮れたところで！

よい子のみんな！
お勉強の時間
だよー！

陰険院さんの！

これでるまるお
言彦くん
対策うう！！

陰

険

やったあ
みんなすつこけて
馬鹿受けたね

やっぱり死にたての
故人を冒涇した
不謹慎キヤクは
鉄板だなあ

白髪版ね！



さて
例によって
鈍行移動だ

確かに目的地まで
時間はたっぷり
あることだし

ここで
おさらいしておこうか
皆の衆

私達が倒さねば
ならん敵

獅子目言彦に
ついて。



獅子目言彦
五千年前の英雄

何より厄介なのは

奴から受けたダメージは
通常治療ではもちろん

スキルを使つたところで
回復しないと
いうことだ

かくいう私も
この通り

奴に碎かれた
この肩に回復の
兆しはない

どうやら
甲子園は諦める
しかなさそうだ



これ以上のダメージは
死んでも避けなきゃって
わけだ

でも逆に言えば
回復系以外のスキルならば
言彦にも通じるって
ことだよな？

じゃあ
箱庭学園が誇る
二大反則級スキル

蝶ヶ崎の「不慮の事故」や
志布志の「致死武器」を
めだちちゃんが使えば
勝てるんじゃないの？

使ったんだよ

エンカウンター
『不慮の事故』も
スカーデット
『致死武器』も

アイスファイア
『凍る火柱』も
ミスターアノウン
『知られざる英雄』も

ことば
『言葉の重み』も
かあ
『お母さんのたしなみ』も

オールマイクシオン
『大嘘憑き』も
ブックメーカー
『却本作り』も

かんさつ
観察できた限りの
けいふん
『二京分の一のスキル』も

シエント
『完成』させたスキルは
あれこれ問わず
なりふり構わず
ぜんぶつか
全部使った。

けれど何も
通じなかったし
通らなかった

いな いひこ
否。言葉は
私がスキル群を

つか
使ったことさえ
気づかなかった
みたいだ……

……にわかには
信じがたいけど

スキル無効化とか
そういうんじゃないや
なくつてもう

言彦には
スキル自体が
通用しないって
わけか……

「天津飯には
大小に関係なく
かめはめ波そのものが
通じないみたいなの
感じかな？」

いやその例えが
わかりやすいか
どうか
わからないけど……

じゃあ言彦の
そういう強さをこそ
「完成」させれば
いいんじゃないのか？

いやそれも
無理だよ
善吉よ

言彦の強さは
そういう類じゃ
ないのだ

たとえば
これが私だと
する

黒神めだか

で
この「私」が

スキル「完成」を
使ったとするよな

まあ私のスキルを
大雑把にまとめると
こんな感じだとして……

ああ……
おう

しかし改めて考えると
とんでもねえスキルだな
これ……

・完成 (ジエンド)
あらゆる技術や能力を体得し
瞬間的に極めるスキル

「そうだね」
「確かにおよそ
敗れそうにない
スキルだけど」

そうだな球磨川
——だが
獅子自言彦は



こんな私を

こう破る。



わかったか？
次元が違うんだよ
言彦の強さは

どんなスキルも
あやつの前では
騒ぎ学問

蟻の斧ならぬ
画餅の斧

破れば終わりの
絵に描いた斧だ



.....
安心院さんの
シミュレートッド
リアリティ思想って

案外言彦のそういう
「次元の違う強さ」が
固めちやったのかも
しれないね！

だけどもめだかちゃん
スキルがそこまで
完全に通じないん
だったら

これから
めだかちゃんが
言彦対策に
身につけようと
している

スタイルだって
やっぱり通じないんじゃないのか？

通^{つう}じる。

何^な故^げなら
言^い彦^{ひこ}には

言^{こと}葉^はが
通^{つう}じるから。

言^い彦^{ひこ}は安^{あん}心^{しん}院^{いん}さん
の
名^な前^{まえ}を「今^{いま}風^{ふう}に発^{はつ}音^{おん}」
するこ^{こと}がで^できたし

「眼^{めがね}鏡^{がね}」と
「メ^めリ^りケ^けン^んサ^さツ^つク」を
合^あわ^わせ^せた造^{ぞう}語^ごを
作^{つく}っ^ても^もいた

「意^い気^き軒^{けん}昂^{おう}」なんて
四^よ字^じ熟^{じく}語^ごも
「眼^{めがね}鏡^{がね}に適^{あて}う」なんて
慣^{かん}用^{よう}句^くも口^{くち}に^にして^{して}いたし

皮^ひ肉^{にく}で^でと^とは言^いえ
「い^いら^らっ^っし^しや^やる」とい^いう
尊^{そん}敬^{けい}語^ごも喋^{しゃ}っ^ていた

正^{しょう}直^{じき}会^{かい}話^わが
噛^かみ^み合^あっ^たと^とは
言^いい^いに^にく^くい^いが^がな

し^{しか}し^し会^{かい}話^わを
成^{せい}立^{りつ}さ^させ^せる^ると^とこ^ころ
ま^まで^でい^いけ^けば

言^{こと}葉^は使^{つか}い^いの^のス^すタ^たイ^いル^るが
通^{つう}用^{よう}す^する^る公^{こう}算^{さん}は
か^かな^なり^り高^{たか}い^い……

……

……まあ
賭けてみるしか
ねえか

しかし
それにしても
ややこしいぜ

これから会いに行く
スタイルの創始者
鶴喰暴博士は

既に三年前
月氷会に殺されて
いるはずの「死人」で

それなのにしかも
影武者としての
不知火の次の「役」
だったんだから

ああ
ひよっとして
博士は

なんらかの
スタイルを使って
生き返ったのかな？

……
善吉

暴博士を
殺したのは私だ

漆黒宴のあとで
そう教えただろ

え？
でもそれって
ただの……
言い方だろ？

お前が過度に
責任感じてただけって
いうか……

「そうだよあのとき
喪々ちゃんに教えて
くれたじゃない」
「三年前の暴博士の
死の真相って奴……」

「何を気に
病んでるのか
知らないけど」

「あれを聞いて
めだかちゃんが博士を
殺したって思う人は
いないって」

ちよっと待って今
喪々ちゃんって言った？
ひよっとしたら私
その子のこと
知ってるかも!!

いいからお前は
その辺の隅で
黙ってる!!



逆に訊きたいな貴様達
ももどの話も
桃園喪々の話を

どこまで
信じた？



漆黒宴の最中
駆け引きの
真最中での
話だぞ？

桃園喪々が
あの口達者が

果たして真実を
口にしただろうか？

……めだ姉
桃園さんが
嘘をついたって
いうのかい？

私の父の
死に様や

漆黒宴の裏で
どう暗躍していた
かについて……



いや嘘をついた
とまでは私も思わん

だが真実の全てを
述べたとも思えない

もちろんあの時は
私が場の言葉に
制限をかけて
いたからな

それで説明が
不自然に聞こえた
言われれば
それまでだが……

まあ……
あえてあのあと
追及もしなかった
けれど……

……
実は私も桃園さんの説明に
納得したわけじゃないんだよね

だって桃園さんの説明で
確かに諸々辻褄は
合うんだけれど

やっぱりどうしても
安心院さんの言ってたニューアンスとは
噛み合わないんだよね

それこそもちろん安心院さんの
いつもの思わせぶりだと言えは
それまでなんだけど……

安心院さん亡き後
もうそれを確認できないからなあ……

めだ姉が今「もうひとりの父親」
梟博士をどう思っているのかも
不明のままだしね

結局本人に
確かめるしか
ないのだ

三年前の
真相も

そして
梟博士が

どうして
スタイルを開発
したのかも――

？

え？

どうしてって……
うん？
どういう意味だ？

おいおい善吉
人がいいな

貴様は疑問には
感じないのか？

それともたまたまの
偶然ご都合主義だとも
思うのか？



将来的に
言彦を継ぐ
不知火半袖

その不知火を
影武者に指名した
梶博士が唯一

言彦に通じる
スタイルを開発
していることを――



箱庭病院
跡地……

正に

兵共が
夢の跡だね……

かつて
フラスコ計画の
前線基地だった場所

黒神めだかと
人吉善吉が
出会った場所
でもある

「はじまりの場所」
とでも言うべきかな

…しかし

本当にここで
あっているん
ですかね？

半袖さまの
次のお役目である
「鶴喰巢の
影武者」

死人の影武者と
いうだけでも随分なのに
その死人が住まう場所が
廃病院だなんて

なんだか
出来過ぎと
いうか…

あつてるよ
元々鶴喰家は
医者の家系だし

それだけでなく
ここは鶴喰巢
ゆかりの地
なんだから

泉博士は
この病院の
院長だったんだ

そして
博士の姉
鶴喰鳩は

この病院に勤務する
ナースだった



鶴喰鳩…
確か黒神めだかの
ご母堂ですよ

へえ…
ナースさん
だったんですか
初耳です

おいおい
黒神家がらみの
ことなのに
不勉強だねお前達

でもまあ
知らなくっても
無理はないか



なにせ樂博士は
第一回漆黒宴で
滅茶苦茶やったからね

友人だった
お館さま—
舵樹さまは随分
庇ったんだけど

それでも
鶴喰家の断絶は
避けられなかった

以来過去まで遡って
鶴喰家の記録は
抹消されている

安心院さんじゃなきや
鶴喰家なんて忘れ形見は
永遠に発見できなかった
だろうね



…確か樂博士は
鶴喰家の面影を求めて
二回目の漆黒宴も
かき乱したんでしたっけ

病院の院長まで
務めた
分別ある大人が
そうまでするとは

いったいどんな女性
だったんですか
鶴喰鳩というかたは？

あたしが生まれる頃に
死んでる人だから
確かなことは
言えないんだけど

当時を知る者の
証言によれば



『白衣の悪魔』

奇烈がナース服を着て
歩いてるみたいなの
人だった



だった—
そうだよ

仕事中毒…
いや

仕事の鬼って
奴だね

さながら
戦争のように
看護をしていた
らしい



不眠不休で
百時間連続
勤務なんて
当たり前

献身的という
言葉じゃ足りない
自身を削るような
看護ぶり

患者の客態が
急変したと聞いたなら
肉親の葬式の最中でも
飛び出したってさ

どうせ使う
暇なんてないん
だからって

私財のほとんどを
医学の発展に
寄付しちゃったりね



おなかの中に
娘がいるときも
産休を取らず
出産当日まで
働いていたらしいよ

まあ場所が
病院だから

入院しながら
働いていたって
感じかな

鶴喰鳩は出産直後
心筋梗塞で死んだって
ことになってるけれど

彼女を知る者に
言わせれば
なんのことはない

あんなの
過労死以外の
なんでもないってさ

……
なんというか……
杜絶ですね

さすがは
黒神めだかの母親
といったところ
ですか……

そうだね……
だけでもちろん

この手の偉人伝には
ありがちな
闇も
彼女にはあった

それも
真っ黒な闇が

彼女は同僚のナース達にも
自分と同じ意識の高さを
要求した

部下を馬車馬の
ように酷遇し
上司をぼろぼろに
なるまで追い詰めた

患者にも甘えを許さず
執拗にリハビリを強要されて
病院を逃げ出した怪我人もいた

その報告を
受けたとき
彼女は

「よかった
一人で歩けたんだ」

と言った
そうだな

怠慢な
医者を病院から
追放するなんていうのは
まだ可愛いほうで

一人の患者を救うために
病院ひとつ潰すことさえ
あったという

もし過労死することなく
働き続けていれば
この箱庭病院を
潰していたのは彼女
だっただろうね……

ぴしっ

そういえば
ナースの戦帽式では
「ナイチンゲールの誓い」
ってのを讀むんだけどさ

ナイチンゲールも
世間的なイメージに
反して結構
激しく厳しい
性格だったというね

まあ
そういう人でもない
世の中は変えられないし
人は助けられないんだろ

そのあたりも
さすがはめだかちゃんの
母親だよな

めだかちゃんも
そういうところ
あったなあ……

……もとより
身内である
奥博士はともかく

そんな付き合い
にくそうな人と
どうしてお館さまは
結婚したので
しょうね？

そうだな……
いくら月氷会の
はからいとは言え……

それとも鳩さまの
ほうからの
熱愛なのかな？

寄付するための
財産狙いとかで……

そういう見方も
確かにあった
らしいよ

実際彼女は分与された
黒神家の財産も
湯水のように
寄付したらしいし

だけどさすがに
そればかりは
当人同士にしか
わからないよ

だからまあ
あたしが疑問に
思うのは
どうして

奥博士が
二人の結婚を
認めてかつ

祝福のスピーチ
までしたのって
ことだ――

だい びょうとう
第四病棟
かい いん ちやう しつ
四階院長室

エレベーターが
と
停まっていたから
たい へん
大変だったけど

なんとか
やくそく
約束の時間には
ま
間に合ったね

て ゆー か
お前達どこまで
ついてくる気さ

もう帰って
いいんだよ？

そろそろ自分の
お役目に
戻りなよ

そうは
参りません
はん 袖 さ ま

後生です
せめて今日一日は
付き添わせて
ください

私達ではあなたを
助けることは
できませんし
箱庭学園の代わりにも
なれませんが

それでも

おそばにいてさし上げる
ことくらいは
できますので……

……
いい奴らだな
お前達

本当。
影武者やらしとくにや
惜しい人材だ



よく来てくれたね
袖ちゃん

待っていたよ
待ちかねたよ

気が遠くなるほど
待ち遠しかったよ



.....!!

俺^{おれ}が
鶴喰^{つるばみくわう}梟^{きう}だ

俺^{おれ}は
お前^{まえ}を

心^{こころ}から
檻^{かん}・迎^{むか}える。



.....
これはこれは

随分^{ずいぶん}と
ダンディで

血色^{けっしやく}のいい
死人^{しにん}ですこと...



陰険院さんって
こんなキャラ？

陰険したぜ

陰険院さん
だね！



ようこそ
袖ちゃん

俺はお前を
檻迎する

檻迎する

だい 第170箱 「鶴喰梟」



鶴喰…

梟…!!

…おい!!
この檻は
なんのつもりだ!

檻迎とか…
何をふざけてんだ
早く出せ!

さもないと
僕のリミッターを
4まで外すよ!!

静かに

死給え。

おいおい
おやおや
お前
そう

青筋を立てて
怒るなよ





鶴喰 梟

黒神家分家
鶴喰家元当主

お館さま
黒神舵樹の
親友

黒神めだかの
元婚約者 叔父
『もうひとりの父親』

箱庭病院の
元院長

第一回漆黒宴の
優勝者

三年前月氷会に
始末された死人

第二回漆黒宴の
黒幕

グッド！
詳しいね

さてはお前
俺のファンだな？

フアンじゃないです
仕事です

それに正直言うと
調べられたのは
そんな紋切り型の
プロフィールくらい
でしてね……

お陰で役作りが
間に合わなくて

トラブっちゃったりも
しましたよ……

それは大変
だったね

だけど
袖ちゃん

それにしても
大事な情報が
1つ抜けているぞ

俺の鳩姉に
対する重度の

愛情は調べな
かったのかい？

それともそれは
言うまでもないと
思ったのかい？

まその点を
差し引いても

昨日の今日で
よくそこまで
調査したものだと
評価はできる

お前の影武者としての
素質は十分に伝わった

ご褒美だ
舐めなさい

お前の大好きな
飴ちゃんだよ

ズ



どうした？
なぜ舐めない

お前の好きな
メーカーの飴を

お前の好きな店で
買ってきたの
だぞ？



もちろん飴だけで
ご褒美を済ます
つもりはないよ

お前の好きな肉も
お前の好きな野菜も
お前の好きな魚も

全部お前の
行きつけの店で
仕入れてきたから

このあとの
ディナーを
楽しみに
していたまえ

なんで
あなたのほうが…
あたしのことを
調べて…!?



…ご褒美と
いうのならば
まずこの檻から
出してはもらえま
せんかね 梟博士

せめて半袖さま
だけでも…
お願いしますよ

半袖さまはあなたの
影武者になるために
来たんですよ？

それなのに
この仕打ちは
あんまりでしょう…

ああそれは
ただの口実だ

俺は袖ちゃんを
俺の影武者に
するつもりはないよ

そう依頼すれば
来てくれるから
そう依頼したただけだ

さっきのもあくまで
影武者としての
資質を確認した
だけだよ

!?

資質を確認…？
影武者にするつもりは
ないって……

じゃあ一体
あなたは

なんのために
半袖さまを
招いたのです…？

なんのため？
愚問だな

決まっているじや
ないか
そんなこと

袖ちゃん
俺がお前を
招いたのは

お前に
求婚するためさ
袖ちゃん

この指輪

受け取って
くれ。



どうした？
受け取ってくれよ
給料三か月分の
指輪

と言いたい
ところだが

今の俺は
無職でね



俺は
無職で

四十代で

マッドサイエンス
ティストで

引きこもりで

死人で

シスコンで

人殺しで

女性を靴下から
好きになる男
だけれど



お前を必ず
幸せにする

結婚
しよう。



なつ…何を
言っているんですか
黒博士！

あなたは
シスコンなんで
しょうか？

実姉の面影を求めて
そのために
黒神めだかさまを
欲していたはず
では……！！



おいおい
おやおや
お前も俺に詳しいね

さてはお前も
俺のファンだな？

これはもう
ファンサービスを
せざるを得ないぞ

では語って
聞かせよう

この俺
鶴喰鳥の

華麗なる
女性遍歴を。

俺の姉鶴喰鳩は
大変素晴らしい
女性だった

聡明で荘厳で
知的的で
献身的で

正義感が強く
勇気があって
情熱的で

まさに
理想を体現した
ような女性だった

しかしながら
それゆえに
彼女は

理想的で
ないものを
酷く嫌った

利己を不正を
欺瞞を失敗を
愚劣を薄情を

人間のどうしようもない
弱さを頑なに嫌い
全否定した

多くの患者が
姉に感謝しつつも

姉を
「白衣の悪魔」と
呼んだのも

俺はそんな姉を
心から尊敬し
そして愛したけれど

そばで振り回される
身としては
悲惨のひと言
地獄の二文字だった

だからこう思わずには
いらなかったのだよ

まあ
むべなるかなと
言うべきだろう

「もう少し
鳩姉が優しくって」

「愛に満ちた
性格だったら
よかったのに」

けれど
ないものねだりを
しても仕方ない

だから俺は
そういう人間を
作ることにした

俺の知る限り
もっとも愛に
溢れた人間

舵樹くんを
鳩姉と
結婚させて。



あの二人の仲を
取り持ったのは
俺だ

鳩姉は結婚に
興味のない人
だったからな

月氷会が決めた
婚約なんて
忘れていたので
骨が折れたが！

そしてその
数年後

鳩姉の奇烈さと
舵樹くんの愛を
併せ持つて
生まれてきたのが

黒神めだか
めだかちゃんだ



……
併せ持つてって……
そんな！

まるで動物を
品種改良する
みたいに！

自分の姉と
親友を――

掛け合わせた

首尾は
ご存知の通り
上々

否

極上だった



だが少し
極上過ぎた

生まれた子は
姉以上に苛烈で

俺は第一回漆黒宴で優勝し
彼女に慕われる
人物になろうと
努力したものだが

彼女の前で
彼女の理想の人物像を
演じたものだが

すぐに
ついていけなく
なった

俺は月氷会に
殺されたのでは
ない

あの子の
愛と苛烈さにこそ
殺されたのさ

要するに俺は
品種改良には
失敗したわけだ

まあ他にも
手は打って
いたんだが

しかし肝心の
姉姉も案の定
過労死して
しまっていたし

俺はこう
思わざるを
得なかった

友以上に
愛に満ちていた。



人生^{じんせい}は
妥協^{だきょう}だ。

袖^{そで}ちゃん

俺^{おれ}はお前^{まえ}を
我慢^{がまん}して愛^{あい}す。



第二回 漆黒宴を
裏で糸を引いて
引っ掻き回したのは

めだかちゃんを
手元に置くためでは
なかったのだよ

心理戦の達人
桃園喪々と
絡ませることで

彼女に心を
学ばせるため
だったのだ

引いては
袖ちゃん

お前を今の
お役目から

引き剥がす
ためだった

もっとも俺の
企みをすべて
知っていたのは

寿常套
紅かけがえ

スタイル使いの中でも
この二人だけだがね...

...そして
役目から解放
された半袖さまを
口実を設けて
呼び出して

我が物にしよう
というのですか
あなたは...

その通り
えーっとだから
さつきのお願いに
返事をする
怪儡くん

駄目だ。
袖ちゃんは
檻から出さない。
一生。

俺も我慢
するんだから
お前達も我慢しろ。



やっぴい...



モノホンの
変態だ……



なんなんだ
あたしの人生は……

どう転んでも
悲惨になるように
できてやがる……

この笑うしかない
みたいな状況で

あたしはまだ
笑えているのか？

……
お待ちくださいよ
奥博士

あなた

大事なことを
見落として
いますよ

半袖さまを
影武者にするつもりが
ないと言うのならば

今半袖さまは
仕事でないので
里の外にいます
ということになる

それが何を意味するか
知らないのですか？

獅子目言彦

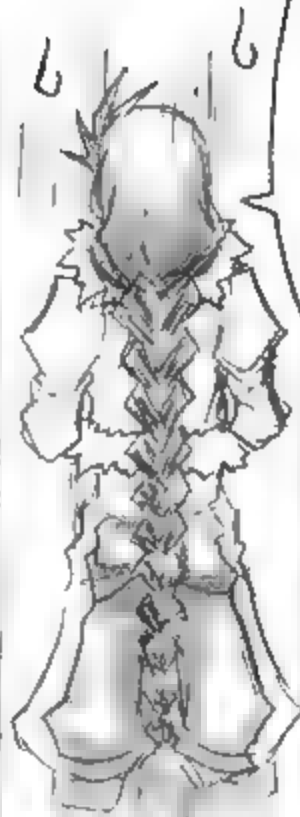
だろう？
知っているとも

だからこそ私は
彼を迎撃するために

スタイルを開発
したのだよ。



今まで
変態を名乗っていた
自分が恥かしいです…



いや
お前が変態で
あることに
変わりはないけどな？



はかちえ

おはなちを
ちやえぎつて
きよーちゆく
でちゆが

ほんもの
本物が
きまちた。

いかがいたち
まちゆか?

はこ
だい
第171箱

「あたしは嘘をつき過ぎた」

ほんもの
本物って…

どうして
めたかさま達が
ここに…?

いひこ
言彦を
倒すためでしょ
たぶん…

スキルが通じない言彦にも
スタイルなら通じるんじや
ないかと考え

それを救わろうと
鶴喰博士を
訪ねてきた…

あたしがここに
いることも…
たぶん知ってる

………
いかがも何も

そんなの
決まっているだろう
常套

大歓迎
する。

『娘』が『父親』に
会いに来たんだ

歓迎以外に
運命があるか？

!!

ほら早く
迎えに行くんだ
常套

え？あたちが
迎えに行くん
でちゆか？

当たり前だろ
お前が気付いたん
だからお前が
行くんだよ

その歳で
案をすること
覚えるな
抱えていけ

なんのつもりか
わかりませんが…

これは助かった
か？

スタイルを教わりにきたと
してもなんにしても
もしめだかさまが
半袖さまのこの状況を見れば
理屈抜きで怒り狂うだろう

その後のことは
ともかくとして…ともあれ
半袖さまをこの檻から出すことは
できるはず……

待ってください
博士

あたしは
黒神めだかに
会いたくありません

どうか
追い返して
ください。

!?

なっ……

……

なにを言うのです
半袖さま！
折角来てくれた
……その……
助けを……

……
助けならそのうち
言彦が来るでしょ

そのとき
昨日みたいな展開に
なるほうが
あたしは嫌だよ

あたしは
スタイルでも
言彦を倒せるとは
思わないし

めだかちゃんには
もう諦めて
欲しいんだ

お願いします
梶博士

あたしで我慢
してくれらつて
言っただじやない
ですか

浮気しないで
くださいよ

.....
それもうだな
ペイペー

おい常套
聞いた通りだ
追い返して来い

え？それも
あたちが
行くんでちゅか？

.....
当たり前だろ
言われたことだけ
やろうとするな

ちゃんと自分から
仕事を探していけ

うーい
自分から
おちごと

ちやがちて
きまぐちゅ

.....
ほ…本当に
これでいいんですか
半袖さま…

.....
いいも
なにも

あ
会わせられ
ないでしょ

あんな

泉博士と
めだかちゃんを



半袖さま……
じゃあまさか
むしろそのために……?

その役目は
既に終わって
いるのになお

あなたはめだかさまの
身代わりを務めようと
いうのですか……?

いや
……
どうなんだろうね?

あたしは自分が
そんな殊勝な奴
だとは思わない

単なる投げやり!
どうにでもなれって
自暴自棄になってる
だけかもしれない



めだかちゃんに
本つつつ当に
諦めて欲しいのも
確かだしね

こんなところまで
追ってくる
その姿勢を

重いと感じている
あたしも
確実にいる

昨日別れ際にあんなことを
言っただけであの気持ち
が本心だったのかどうか
今となってはわからない

あのときは
本心のつもりで
泣いたけれど

案外あたしは
ただ別れ際を奇麗に
演じたかった
だけなのかも……

「何を考えてるか
わかんない奴」

なんて

人吉によく
言われたもん
だけだよ



あたしが
なに
かんが
何を
考えてるか
なんて

あたしの
しょうじき
正直な
気持ち
なんて

あたしが
だれ
誰より
わからないよ

あたしは
うそ
嘘を

つき過ぎた
.....

はんそく
半袖さま.....



廃病院だからより
そう感じるのかも
しれないけれど

しかしあれだな
病院ってのは
どこも

まるで迷路
みたいな作り
になってるよな



時計塔地下一階の
迷路を思い出すぜ

もつともあそこは
真新しくて
こんな不気味じゃ
なかったけどな

不気味はなからう
善吉よ

貴様と私が
初めて会った

ここは思い出の
場所でも
あるのだぞ



「そうだね」
「僕にとっても
この病院は」

「人吉先生と
初キッスをした
思い出の場所だよ」

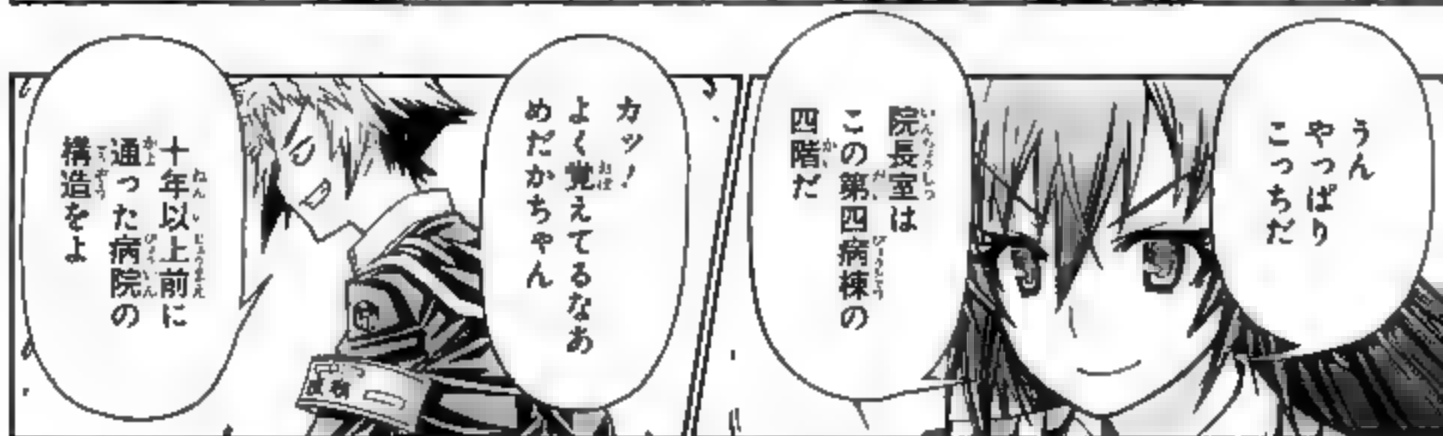
ちよつと待て
聞き捨てなんねえぞ
球磨川先輩！

俺のお母さんと
どんな思い出
作ってたんだ！

あまり騒ぐなよ貴様達
傷に響くぞ

おっと

その角を
曲がるんだった
かな





別に何も…
その辺で生きて
その辺で暮らして
いたよ

生きる理由とか
目的とかも

特に考えたことは
なかったなあ…

父親探しってのも
実のところは
他にすることがないから
しているだけだね

会っても何を
話したらいいか
わからないや

「あはは」
「じゃあ
バーミーくん」

「きみのスタイルって
お父さんから
教わったわけじゃ
ないんだね？」

そう——私がめた姉に
スタイルを教えられない
理由もそこにある

私は単に
父を探すうちに
身に付けただけ
だからね

修業とかも
特にしてない
独学だし……

修業か…
やはり必要になって
くるのだろうか

果たしてどれくらい
時間がかかる
ものなのかな

大丈夫！
私にもできたん
だから

お前にもきつと
できるよ黒神！

もーん

うん…
貴様を見ていると
自信がわいてくるよ
鬘波…

いや修業にかかる時間なんて「完成」を使えばあつという間だろ？

だから問題は奥博士がスタイルを教えてくれるかどうかじゃねーの？

知名度の低さからすると門外不出っぽいしな……

スタイルは「完成」では体得できんよ

事実二度も観察できたのに

桃園の「名札使い」は使えそうもない

たぶんなんらかの未知の要素があるのだろうな

門外不出かどうかも気になるところだが

そもそも身につけること自体簡単ではなさそうだ

だが言彦を倒すためだ

どのような修業でも耐えるつもりだし

博士には否が応でも教えてもらうさ

カツ……なんにしてもどうやら

感動の再会とはなりそうもねーな

私もそんなの期待してないよ

ただまあ……

「……………」

……………」

…つて！

えっ…

えっ…



ええええええええええ
ええええええええええ
ええええええええええ!?

からだ
身体のサイズが
ぜんいんちち
全員縮んで…



まるで子供
みたいに……!?



いや「まるで」
「みたいに」じゃねえ！
実際にみんな
子供に戻ってる！

三歳か…
四歳くらいか？

持ってた
懐中電灯も
なくなってるぞ！！

廊下の角！
バーミーが言ってた
廊下の角だ！

あのときまでは
懐中電灯は
確かに持ってた！

あそこで確実に
なにかが
起こったんだ！！

「なくなってる」

「だけじゃ
ないね」

「これは僕が子供の頃
肌身離さず持ってた
ぬいぐるみだ」

「なくしちゃった
はずの宝物
なんだけれど」

「いつの間にか
手に持って
ひきずっていたぜ」

球磨川先輩…

あんた子供の頃
そんなデザイン
たのむのか



この廊下自体に
秘密があるわけでは
なからうが

奥へ進むほど
身体が縮むならば

これ以上先に
進むのは
危険過ぎる……

四つん這いの
赤子になるくらいなら
まだしも

最悪己が身が
この世から消滅
しかねんぞ……

……
じゃあ

廊下を
戻れば？

この足跡を逆に辿れば
元のサイズに
戻るんじゃないの？

ああそうだな
かもしれん

その公算は
それなりに
高いだろう

しかし
善吉 球磨川
気付いておるか？



からだ
こども
身体が子供に
なったことで
わたしたち
私達の

いひこ
言彦から受けた
はかい
破壊が
なお
治っているぞ

!?



ほー
本当だ

「五本の精爪」でも
「大嘘憑き」でも
治らなかった
俺達の傷が...

傷跡も
隠い目もなく、

「.....」
「そうだね
厳密には」

「治ったわけじゃ
ないんだろ
けれど」

「確かにこれは
回復していると
言えなくはない...」



確証はないが
これがかもしもスタイルの
効果だとするなら
おいそれと引き返す
わけにはいかんのだ

「言彦を倒すための
重要なヒントに
なるのだから...」

賛波！

お前何か
心当たりは
ないのか!?



あーっ。

これは
常套さんの
スタイルだねー

むかつくポーズで
あるんかい!!



常套……
常套と言えは確か
私の元婚約者
だったな

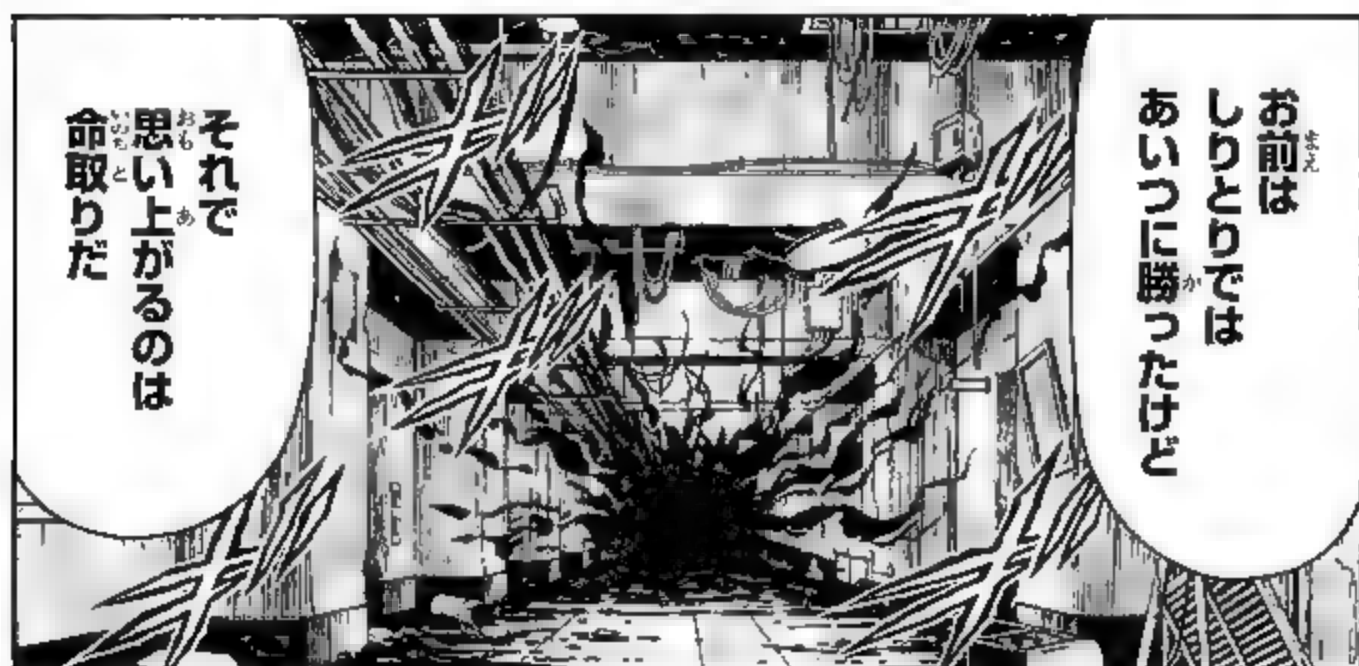
漆黒宴は
既に終結
したのに

あの女はまだ
博士と行動を
共にしているのか……?

そうみたい
だね

引き返さない
決意は
立派だけれど

でも気をつけなよ
黒神



お前は
しりとりでは
あいつに勝ったけど

それで
思い上がるのは
命取りだ

童謡使い
ことわざじょうとう
寿常套

童謡(幼)を操る
どうよう
あやつ
言葉使いだ
スタイリスト



そう言えば
お前の無傷伝説
なにげに
更新中だな

……まあ
一応私
分家ナバー
もぐら様の
影武者ですし……



ねーんねん
ころりよ♪

ろりろり
よ♪

坊やは
最期だ♪

ねんね
死ね♪

寿常套のスタイル
「童謡使い」

詳しいことは
私にもわからない
けれど

とにかく彼女の
歌う歌を聞くと
肉体が幼くなって
しまうんだ

歌……？
いやでも

歌なんて
どこからも聞こえて
こないぜ？

え？なに？人吉
お前私の言うこと
疑ってるの？

残念な人格だねー
仲間の言うことを
信じられないなんて

お前が将来借金で
首が回らなくなつたとき
最後にお金を貸して
あげるの私なんだよ？

お前と仲間になつた
おぼえがないし

お前から金を借りる
くらいだったら
首をくくるよ！！

めだかちゃん
一体なんなんだ
こいつは……

俺にとつては
起きたらいた奴
なんだが……

すまん
善吉……

私にもこいつが
なぜいるのかだけは
わからないのだ……

なので
それはさておき

まずは現状を
認識して
みようか

あの角を
折れたところから
私達の身体の
「若返り」が始まった

わかがえ かいし
「若返り」開始

あの角を折れてから
ここまで歩いたことで

私達は
大体十四年分
若返ったわけだ

現在位置は
この直線廊下の
ちょうど中央と
いったところで

げんざい ち
現在地

いや若返ったって
言っても
元々私達は
若いんだけどさ...

じゃあこの廊下！
αメートル歩けば
X歳若返るとか
そういう仕組みなの...!?

私達の身体年齢は
およそ2〜4歳と
いう感じだろう

いんちやうしつ
院長室へ

いや等間隔で
若返ったという
感覚はないな

むしろ最初は
なだらかな変化
だったから

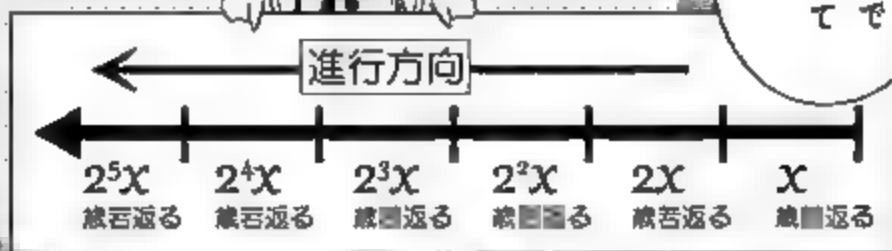
不覚にも気付くのが
遅れてしまった感じ
なのだろう

足跡の歩幅の
間隔からすると
等比数列かな

最初の a メートルで
 x 歳若返ったとして
公比が2の場合

次の a メートルでは
 $2x$ 歳若返る

次の a メートルで
 $4x$ 歳
その次の a メートルで
 $8x$ 歳若返る



それを繰り返して
今に至ると
いうわけだ

等比って…
じゃあやつぱり
ここから先には
一歩も進めないな

既に何項目に
なるか
わからねえ

ちよつと歩いただけで
赤ん坊になつちまい
かねないぜ

いや善吉
しかしそうも
いかんのだぞ

奥に近付くほどに
若返りが進行すると
いうことは

畢竟この奥にステージを
構えて待ち構えて
おるといふことだ

童謡使い
寿常套が

歌っておると
いうことだ

……いやけど
やっぱり歌なんて
聞こえないぞ

ていうか
歌なんか奥から
聞こえてきたら

怪しくて
そもそも奥に
進んできてねえよ

聞こえる
必要が

ひよっとしたら
ないのかもね

人間の可聴域は
20ヘルツから2万ヘルツで
それ以上の振動を超音波
それ以下の振動を低周波と
呼ぶ

当然ながら
超音波や低周波は
人間には聞こえない
んだけど

聞こえないからといって
人間の身体に影響を
与えないわけじゃない

例えばよく
知られている公害に
低周波騒音という
ものがある

音として
人間には認識
されないけれど

振動としての低周波が
人体に悪影響を
及ぼすという――

……
声はすれども
姿は見えず

どころか

音にも聞こえぬ
攻撃というわけか

「……」



『難しいことは
わかんないや』

『要するに
敵を』

『螺子伏せれば
いいって話
でしょ?』

球磨川先輩…

あんた
4歳の時から
螺子使ってたの??

『あはは!』
『螺子なら奥に
飛ばしても!』

『若返ったりは
しないよねえ!!』





「さきばし
先走った奴が
突撃だった
振りをするな!!」

「ごりやあ
投擲作戦は
使えないね」

「なるほど
腕力も四歳当時に
戻ってるわけだ」

「ふっ」

「……」



えーつと……じゃあ
「大嘘憑き」は？」

「大嘘憑き」を
使ってこの現象

「若返り」を
なかったことには
できないんですか？

「それはもう
試した」

「通じな
かった」

「ていうか
使えなかったよ」



「僕が「大嘘憑き」を
「身につけた」のは
中三のときだからね」

「安心院さんと
出会っていいない
この頃じゃあ」

「劣化版でさえ
使えないみたいだ」

ふむそうだな
確かに私も

箱庭学園に
入ってから憶えた
スキルの大半は
使えんようだ

ぐぐぐ



ただし

改神^{かいしん}モードは
どうやら使^{つか}える。

あそっか

改神^{かいしん}モードだけなら
あくまで体術^{たいじゆつ}の
範囲^{はんい}内だから…



ま二歳^{さいじ}児^{のう}の能力^{のうりき}を
全開^{ぜんかい}にしても
知^しれておるがな

気休^{きやす}めくらいには
なるだろう

さて皆^{みな}の衆^{しゆ}
貴様^{きさま}達^{たち}はここで
待^{まち}っておれ

とりあえず
私が一人で

ここから先^{さき}に
進^{すす}んでみることに
する



何言^{なに}ってんだよめた姉^{ねえ}！
これ以上^{いじやう}奥^{おく}に進^{すす}んだら
まずいって話^わだったでしょ！

不知火^{しらぬい}さんを助^{たす}ける
という目的^{もく}を果^はたす前^{まえ}に
消^きえてなくなり
たいのかい！？

箴言^{しんげん}感謝^{かんしゃ}する
弟^{あに}くん

だが

いつまでも
足を止^{とど}めていても
始^{はじ}まらない

いつだって
一步を踏み出す
ことで

私は目的へと
前進してきた

案ずるな
私は成長の早い
子供だったからな

0歳直前までは
歩行が可能なはずだ



めだかちゃん
!!!



信じよう

黒神のことだ
きつと考えるが
あるんだよ

語るな!

一体お前が
めだかちゃんの何を
知ってるんだよ!!

「……」
「そういえば」

「もがなから
聞いたつけない
飯塚食育委員長の
技のこと……」

ちよつと
待って!

球磨川先輩 いつから
喜界島のこと下の名前で
呼び捨てにしているの!?



「音」に対して
逆位相の「音」を
ぶつけることで

「音」を消滅させて
しまう高等技術」

飯塚くんは喜界島さんの
声帯砲をそれで無効化
したとかしないとか…」

「善吉ちゃんも
憶えてるでしょ
あのイベント…」

「あ！ごめん！
善吉ちゃんはある
参加してなかったん
だっけ？」

参加はしてたよ！
そこまで辿りつけ
なかっただけ！

「たぶんめだかちゃんは
それをするつもり
なんだろう」

「聞こえなくても
音は音」

「逆位相の振動で
消えてなくなる
はずだから」

「問題は
幼児の肺機能で」

「どれほどの発声が
できるのかということ
だけ…」

そのための
改神モードか…

幼児のそれであれど
体機能を十全に
使うための…

そして聞こえない音の振動を
肌で感じてなるだけ正確に
把握しようと
前へ前へ進んでいるわけだ…





だっ…駄目だ
めだかちゃん！
限界だ！

それ以上
前に進むな！
そこがリミットだ！！

………
いいやまだだ

まだ正確なリズムが
つかめておらぬ



ここだ…
ここだ…



声帯砲改
せいたいほうあらため

声対砲!!
せいたいほう



めだかちゃん
.....!!

くっ...
うっ...

外したか
.....?



戻った……!

いや

完全では
ないが……



チャンスだ!
続け貴様達!

畳みかけるのは
今しかないぞ!!



サイズから察するに
今の私は中学一年全盛期!
高貴と張った
あの時代の身体!

スキルは使えなくとも
十分勝負になる!

!!



ろりろり
よ♪









逃げたか…
へえ

なるほど

うまいな



これであたちは
人質に手を
出せなくなった

そして追うことも
できない

あたちが離れたら
この子達が元
戻っちゃいまちゅ
からねー

人質をむしろ
こちらの枷に使う
戦略だ…



ちやちゅがは
百戦錬磨の
黒神めだか

それともきみが
促したのかな？

人吉善吉くん？
ん？

までも
仲間を置いて
先に進める奴でも
ないでちょ

そう遠くまでは
逃げてないはず

たぶんまだ近くに
潜んでいるー

はあ……はあ……
はあ……くっ……
中一サイズだから
うまく潜めたが

こんな屈辱は
初めてだ

この
黒神めだかが

二日連続で仲間を
置いて逃げた挙句
こんな狭い場所に
追い込まれるなど……

携帯電話を使った
トリックとは……
油断した

考えれば
わかりそうな
ものを……

脳まで二歳か
私は！

しかし……で真に
黒神めだかが驚いたのは
「携帯電話のトリック」ではなく
「トリックが携帯電話」
だったことである

通常携帯電話などの
通信機器では
快適な通話のため
「音」を外れる周波数の音は
カットされる

つまり本来、
携帯電話を通せば
超音波や低周波の「音」が
聞こえるはずがないのだ

しかし寿常套のスタイルは
そんな「物理」を
悠然と無視してみせた――

確かに漆黒宴とは
様子が違うようだな
強敵だ

だが寿常套
私はあえて
貴様を

赤子の手を
ひねるように
倒す！

Q そもそも

貸せるお金を
持っているの？

いや私
黒神分家の娘だし
少なからず
お金はあるんだよ

その癖に
鉱山もらおうと
してたのか
お前……？



んじや次が今日
最後の曲でーす

アンコールとか
マジいらねーし
マジだし！

これ聞いたら
帰ってね
消費者の諸君！

第173箱
『歌』とはなんだ？

俺様達で
『おもちゃ箱』！

鍵がかかって
開かないよー

あたしの神った
おもちゃ箱



今日は招待してくれてありがとう

見事な演奏だったぞ
咲ちゃん
ぞめきちゃん
十字花ちゃん

私は今やすつかり
貴様達のファンだよ

キヲテラエ様



そいつは光栄だけどな
黒神ちゃん
喜界島ちゃん

こつちこそ
感謝感激つてもんだぜ
俺様達は

箱庭学園でのライブ以来
こうやって
スリーピースで
活動するように
なったんだからよ



それで？
黒神ちゃん

メールで言ってた
訊きたいことって
なに？

私達に答えられる
ことだったら
いいんだけど

ああうむ
そのことだ

今日のライブを
聞いてより強く
思ったことなのだが

「歌」とは
なんだ？





あたちが買回した瞬間
全員あの通風孔と
逆方向を見た

あまりに露骨な口説きで
素直に教えて
くれたような
ものでち●

あの距離なら
私の童謡的に
今の黒神は
13歳ってとこか

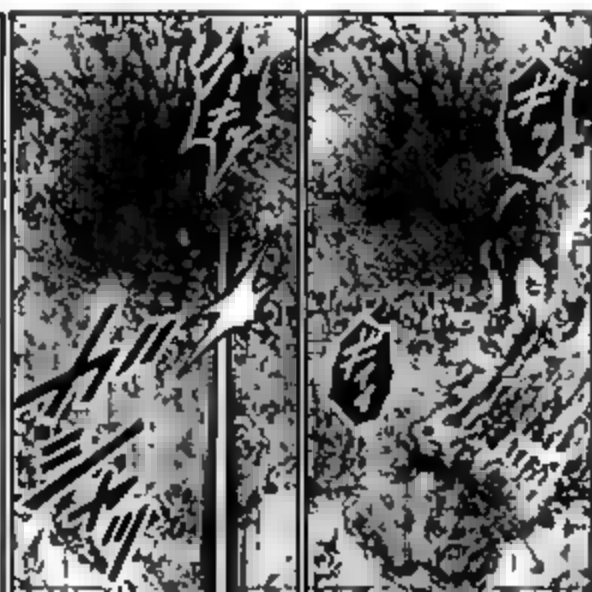
んじや

享年13歳だ
御臨終！



…あれ
外れ？

じゃあ黒神の奴
一体どこに
隠れたんだ…？



.....
無茶苦茶するな
あの女……!

あと五秒
乱射されてたら
終わっていた……

上峰先輩に聞いた
護身術のお陰で
命拾いしたぞ

持つべきものは
強敵だな!

ただこれで
この場所への疑念は
消えたはず

非常套……
奴に近付くと幼児化
してしまうのだから
この距離を保ちつつ
攻撃するのが良策
だろうな

幸い弾丸は
手に入ったことだし

言彦ではないが
ありあわせの武器で
戦ってみるか

いささか命中性に
信頼は置けんが

スキルに
頼れん今は
致しかたあるまい

撃ち抜かせて
もらうぞ
非常套――

!?

なっ…
近付いていない
のに

ようじか
しんこう
幼児化が進行
したと…!?

くっ…さては
「聞こえない歌」の
音量を上げたのか!?

ここまで離れても
サイズが戻らない
……

否!むしろここでも
まだ徐々に幼児化している
ような……!!

しかも出口から
遠ざかってしまったので
狙撃が出来ない!

まずい…例の
ボイスキャンセルで
稼げる時間は一瞬で

照準を定める
時間なんて
とてもない!

非常にまずい!
かなり手強いぞ
童謡使い!!

ねーんねん

ころりーよ



らんしん
乱神モード！

あまり気は
進まんが…

これを使うしか
なさそうだな

弟くんときは
これでうまく
いったし

たぶんこれで
大丈夫だと
思うのだが…

きんぐわん
昨年九月
黒神めだかは
安心院なじみが
連れてきた

てんこうせい
「転校生」
鶴喰鷗と
バトルになった

「アブノーマル」と
「マイナス」

そして彼女が初めて
体験する「スタイル」の
三つを同時に操る
鶴喰鷗に

くろかみ
黒神めだかは
大層な苦戦を
強いられた

かのじょ
そこで彼女が使用したのが
乱神モード

つまりは
「話を聞かないモード」
である

「スタイル」を
言葉による戦闘技術だと
読んでの戦略で

からくもそれで難を
逃れたのだった

こんかい
今回はスタイルを
学びに来たのだからと
かような危機においても

スタイルを無効化する
この戦法を出し惜しみ
したのはいつもながらの
彼女らしさではあったが

その出し惜しみが
彼女をここまで
追い詰めてしまった
ことも確かだった

ぐっ…

きつつ…

しかしそうか…
それがスタイルの
正体だと言うのなら

「完成」では
身につくはずも
なかった…

……
そういえば
あやつらも

……
そんなことを
言っておったな

文化祭のステージで
もがなちゃん達の歌を聞き
私は知らぬ間に
涙を流していた——らしい

たぶん感動しての
ことだと思うのだが…

……
方で私の演奏には
感動が欠けているという

これは私自身
薄々自覚しては
いたのだが

はばかりながら
技術に不備が
あるとは思
えないのだ

……
ならば私の「音」に
欠けているものは
なんなのだろう…

ど

う


~~~~でも  
いいこと悩んでんな  
お前まえ

青春せいしゅんめ！

ああ…  
うん

ごめんなさい

でも確かに  
不思議だよな  
めだかちゃんの技術ぎじゅつには  
感動かんとくがないって

人吉ひとよしはそれが当然とうぜん  
みたいに言ってたけど

めだかちゃんの普段ふだんの  
振る舞いは十分に  
それだけで見る者ものに  
感動かんとくを与えてるのにさ

どうして芸術げいじゆつ方面ほうめんに  
関かんしてのみ打率だりつが  
悪わるくなるんだろう？

…ひよつとすると  
苦手にがてなのは  
芸術げいじゆつじゃなくて

「コミュニケーション」  
なのかもね

黒神くろがみちゃんは  
求道者きうだうしやってタイプだからね  
何なにをするにも  
極めることのみ  
完成かんせいさせることのみに  
意識いしきが向くんだろう

それは  
素晴らしいこと  
だと思うし

そうでなきや  
辿り着けない領域りやういきも  
あると思う

けれどたとえば  
俺様達おれさまたちにとって歌うたは  
目的もくじゃなくて  
手段しゅだんなんだよ

俺様達おれさまたちにとって歌うたは  
たとえ未完成みかんせいでも  
未熟みじくでも





みんなと  
ともにある  
共振え

ともにな  
共鳴き

ともにかんじ  
共感る

スタイル  
手段だ。



.....  
なんの  
リアクションも  
ないなあ

もちかちて  
あの子

仲間を見捨てて  
逃げちゃったかな？



コミュニケーションが  
取れない年齢にまで  
若返れば  
あたちのスタイルは  
「共鳴」ちなくなる  
からね

まさか  
消滅したってことは  
ないと思うけど...

単身奥はかちえの  
ところに向かったら  
いいのになあ

だってその場合は  
かけがえちやんが





叩かした  
床下から…!?

なっ…  
くろかみ  
黒神っ!



否!「通風孔から  
叩かした  
床下まで」だ!  
ドリルのように  
えぐってきた!

読みを外して  
動揺したな  
童謡使い!



貴様の身体も  
同様に  
えぐって—



!?











貴<sup>あなた</sup>様あ！

それがっ…

それが！

それが大人<sup>おとな</sup>の  
やることか!?

勝<sup>か</sup>つために

工夫<sup>くふう</sup>する

立派<sup>りっぱ</sup>に大人<sup>おとな</sup>の

立派<sup>りっぱ</sup>な大人<sup>おとな</sup>の  
やることだよ

どうする？  
破<sup>やぶ</sup>れかぶれで  
特攻<sup>とくこう</sup>してみる？

それもいいだろう  
そのモードなら  
あたちのスタイルも  
通<sup>と</sup>じないみたいだし

そんな興奮<sup>こうふん</sup>状態で  
仲間<sup>なかま</sup>を避<sup>さ</sup>けて攻撃<sup>こうげき</sup>できると  
思<sup>おも</sup>うならすばい



あるいはさっきの  
ボイスキャンセルを  
使ってみれば？

あれと「音速」を超える  
黒神ファントムの  
コンボなら

あるいは  
鎧をすり抜けて  
あたちを倒せる  
かもね

試してみる価値は  
あるかもよ？

無理だ  
理屈ではそれで  
勝てるかわかっていても

たとえ1%でも  
仲間を傷つける可能性が  
ある作戦を黒神が  
実行できるはずがない

だあ！  
(いやだから！)

はふ！！

(お前がめだかちゃんを  
語るなよ！！)

よし

勝った

漆黒宴で無様を晒した  
叶野と潜木のミスは  
なまじ強力だっただけに  
スタイルを重宝しすぎたことだ

かといつて  
桃園みたいにまるつきり  
放棄するのもうまくない

使うべきときに使って  
肝心なところは  
スタンダードにハッパを  
丁度いいんだ

そして勝利以上に  
有意義な戦いだったわ  
黒神めだかに  
通じたというところは

獅子目彦彦とやらにも  
私のスタイルは通じると  
いうことなのだから――





あたしの神った  
おもちゃ箱  
鍵がかかって  
開かないよ

秘密の鬼った  
おもちゃ箱  
中身はなんだか  
わからない



?  
なに…?

歌…?

叩けば  
いい音  
するけれど

空っぽじゃ  
ないと  
信じてる

ボイスキャンセルじゃ  
ない!

私の歌を  
無効化するんじゃないか…  
自ら歌って

というとは  
まさか…

くつ…  
やめろ!  
黙れ!

歌うのを…

その言葉を  
やめろ!







上峰書子の

護身術講座

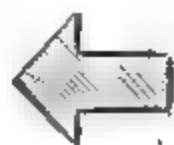
① マシンガンで

撃たれますよね？

② 食べます。

めだかちゃんは

これで理解しました。





だい はこ  
第174箱

うそ きら  
「嘘が嫌いなんだ」





いやいやそりやさあ  
黒神めだかだ  
本家のお嬢様だ  
鶴喰場の娘だ  
バケモン女だ

対人用の銃火器で  
倒せるだなんて  
思ってたない

だけどマシンガンの  
弾丸をどうも！  
こうもどうも！  
跳るように  
避けるだなんて――

でも大丈夫！

私にはこの  
赤身鎧が――

!?



嘘……

あかちゃんごと  
蹴るとか……

……って  
あれ？

蹴られた  
この子は

ノーダメージ  
……？

ああそうか  
つまり衝撃を！  
この子の身体を  
透過させて

私にだけ  
伝導させて

後ろの赤ちゃんにも  
伝えることなく  
びったり――

赤子の手を  
ひねるように

とは  
いかなかったが  
寿常套

それでも一応  
言わせてもらおう

寝んね  
しな！









あら意外  
これは驚き  
サプライズ

あの子が  
言ってた通り

寿ちゃん  
負けてますねー  
格好悪っ！



はっ！  
黒神めだかの元婚約者  
最後のひとり

杠かけがえ

でえええす！  
ぴーす！



.....  
貴様達

院長室に  
向かうルートは  
ここだけではあるまい

だからあの台詞を  
言わせてもらうぞ

ここは  
任せて

先に行け。

!?

え!? 何言ってるんだ  
めだかちゃん!  
お前一人残して  
行けるわけが――

勘違いするなよ  
善吉

今回私が「助けてくれ」  
と言ったのは  
私をじゃない

不知火を

なのだぞ?

目的を  
見失うな

それとも私が一緒にで  
なければ貴様は  
怖くて不知火には  
会えないか?

カツ!  
わかったよ!

だけど絶対  
追いつけよ!!

追いついてきた  
お前に!

俺と不知火との友情を  
見せつけてやるん  
だからな!!





なんだ？  
なにがおかしい  
紅かけがえ？

いやいや  
感心してたん  
ですよ

さすが黒神めだか様！  
うまいこと仲間を  
扇動するなーって  
思っちゃいましたね



あなたは  
損な役割を  
引き受けた

振りをして

上手に  
足手まといを  
追い払いましたね

大方寿ちゃんに  
あの四人を  
人質に取られて  
苦戦したんでしょ？

仲間を体よく  
追い払うために  
幼馴染の  
痛いところとは

さすがは漆黒宴で  
人の心を理解した  
黒神めだか様だ



…なあ

そこはもう  
私の間合だと  
思うんだが……



ん？ああ  
いいですよん

もう  
バトル開始で



結局桃園ちゃんの  
手ほどきで  
心を理解したところで

化物は化物  
蛙の子は蛙  
なんですわえ

その理解を  
人心掌握にしか  
使えないんだから！







.....  
私の攻撃が

心が読めるのか  
貴様...?

否、そう言えば  
善吉が言っ  
ておったな

弟くんは  
繰り出す前  
の隙を止め  
られたとか...

弟くんの奴  
私とやるときにも  
そんなことを  
していたような――

していなかった  
ようない

!?

二箇所同時の  
攻撃なら  
通じるとでも？  
甘いですねー

蛸さんの  
ラッシュだって  
私は防ぎ

否。  
塞ぎますよ！

くっ...













乗った…!?



ふむ。  
こうやるのか

思ったよりは  
簡単だな



なるほど確かに  
最強よりは  
強いかな

だが言葉使い  
だからと言って  
この私相手に

「言葉」は  
使わなくて  
いいのかな?

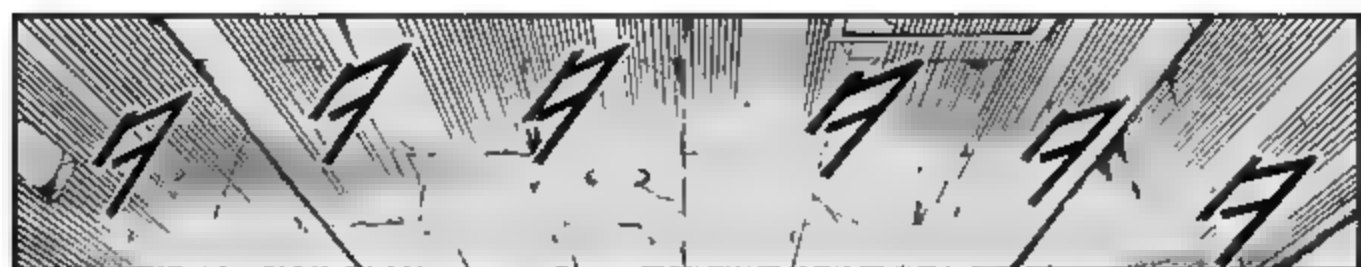
足で押し倒すなんて  
情熱的なたですわね  
ときめきますわ

ああちなみに  
質問に  
答えますと

いいんですよ  
使わなくて  
だって

私の役目は  
足止めですから☆









お前院長室に  
いるんじゃないか—

しらぬい  
不知火！  
え…どうして？



よし…紅様は  
どうやら足止めに  
成功したらしい

さすがはあの偽造が  
影武者を務める  
お人だ…



なんだよ…  
紅を差し向けたのは  
お前なのか不知火？

なんだよ！お前さては  
また俺達を追い返そうと  
してんのかよ！！

静かにしてくれま  
せんかね  
友達じゃない人

あたしは友達じゃ  
ない人と話すために  
出張って  
来たんじゃないん  
ですから

檻から

く…  
友達じゃない人  
友達じゃない人って…

じゃあ誰と話すために  
出張ってきたんだよ  
お前は！！



球磨川先輩  
あなたですよ

先輩 あたしと  
取引しません？

「おいおい」  
「記憶を消してくれって  
お願いなら」

「ちゃんと断った  
はずだぜ？」

「!!」

ええそれは  
納得しました

あるんでしようよ  
私の中にも  
強い思いとかが

だからそれは  
もういいです  
諦めました

今のあたしの望みは  
ただこの面倒臭い展開を  
一刻も早く畳みたい  
だけです

だから球磨川先輩  
めだかちゃんを  
裏切って

あたしの側に  
ついてください

これ以上の悲劇が  
起きる前に  
無難にことを畳める  
プランがあります

この手の裏切りは  
お手の物でしょう  
球磨川先輩？

もちろんお返しは  
考えますし……  
全開パーカー  
でしたっけ？

わかりました  
だから  
マイナス同士

あたしと仲良く  
しましょうよ





「……」

「不知火ちゃん」

「生徒会戦争でも  
きみは」  
「そうやって話し合いで  
立ち回ってたね」

ぽん

「そういえば  
あのときの恩を  
——」



「仇で返すのを  
忘れてた。」

!?

「大嘘憑き」

「ひとよしぜんきち  
人吉善吉を  
なかったことにした」





なっ…  
「大嘘だき」!?  
劣化版じゃない!?  
……!?

なんで  
使えるの!?

いやお前  
劣化版じゃないほう  
知らないだろ!?

「故安心院さんに  
「手のひら舞」を  
いただいてね」

「それを合成した—  
ゆえに思いの強さ  
とかはもう関係ない」



「掛け値なく  
すべてを  
なかった  
ことにする」

「取り返しの  
つかない  
マイナスだ」

え…  
取り返しが  
つかないって…

それじゃあ  
ヒートは…  
もう二度と……



「そう」  
「あんなに思いの強い  
ヒートだって  
消し去れる」

「だからきみの記憶を  
消すことだって」  
「実は今なら  
できるんだ」

「全開バーカーでお願い  
するならそっちは」  
「叶えてあげてもいいぜ  
不知火ちゃん」

ひ

ひ

ひとよし  
人吉に



あたしの大<sup>だい</sup>好き<sup>す</sup>な  
親<sup>しん</sup>友<sup>ゆう</sup>に何<sup>なに</sup>すんだ  
てめえ——っ!!

ぶっ殺<sup>ころ</sup>すぞ  
球<sup>く</sup>磨<sup>ま</sup>川<sup>がわ</sup>ああっ!!!!





あ…

「…やっと  
自分の本音が  
わかったようじやないか  
不知火ちゃん」

「そうだね  
めだかちゃんとは友達に  
なれなかったきみも」

「善吉ちゃんとは  
友達になれた」

「それなのにまあ  
友達じゃない人とか  
心にもない心ないこと  
言っちゃって」

「僕は嘘が  
嫌いなんだ。」

「だから  
不知火ちゃん」

「きみとは仲良く  
できないね！」

「だけど  
八つ当たりは  
やめて欲しいな」

「僕みたいな  
危険人物の  
いるところに」

「善吉ちゃんを残して  
去っていったのは  
他ならぬ  
きみなんだぜ？」

「つまり今彼が  
この世から消滅し」

「帰らぬ人と  
なったのは  
きみのせいだ」

「僕は  
悪くない。」

「きみが悪いきみが悪い  
きみが悪いきみが悪い  
きみが悪いきみが悪い  
きみが悪いきみが悪い  
きみが悪いきみが悪い」

「きみが悪くて  
いい気味だ」

球磨川あ



まさかてめえ  
『あたしが相手  
なら勝てる』とか

おも  
思ってるじゃ  
ねーだろうなあ？



初めて知ったよ  
この世には

話す価値もない  
人間もいる。

「今更何  
言ってるんだい」

「価値がないから  
負越なんだよ」

く……  
球磨川先輩

「消えなよ」  
「鶴喰くん」



「きみは本来  
父親に会いに来た  
だけだろう？」  
「だったらその目的を  
見失うな」

「ここは  
任せて」

「先に行け。」

「いいや  
忠告をしたいんです」

あなたは  
知らないん  
だろうけど

不知火さんのスキル  
「正喰者」は——





「わかってるさ」  
「たとえ『大嘘憑き』を  
取り戻そうと」

「僕は僕だ」

「不知火ちゃんが相手なら  
勝てるだなんて  
思ってないさあ」

「だからこの際  
もうひとつの  
遺産も」

「『大嘘憑き』に  
合成する」

「はい  
できあがり」

「これぞ  
完全版負完全」

「安心大嘘憑き  
！！！！！！」



変態（モノホン）と  
二人きりに  
なってしまった  
変態（影）：  
!!





いやはや  
本当にぶっ飛び  
意味不明だね  
あの球磨川って奴

不知火を  
助けに来たはずなのに  
どうして

その不知火と  
バトルに突入してるんだよ  
まったくもう

お前に言われちゃ  
球磨川先輩も  
おしまいだよ

けどまあ話がここまで  
込み入ってくると  
もう話し合いで  
割り切れないのも  
確かだろうけどね

何が正しいとか  
どちらが正しいとかじゃ  
既がない

不知火さんも  
今の状況じゃあ  
たとえ箱庭学園に  
帰りたいとも  
引込込みが  
つかないだろう

力ずくで  
連れて帰るしか  
最初からなかった  
んだよ

第175箱 「正喰者」

…しかしながら  
たとえ舞台上に  
上がりたがらない  
不知火さんを  
焚きつけるため  
とは言え

ヒートで  
「なかつたこと」にする  
球磨川先輩は  
確かに意味不明さ

一体何を考えてるん  
だろうねあの人は…

ま

大丈夫  
なんじゃない？



何を<sup>なに</sup>考<sup>かん</sup>えてるか  
わかんない奴<sup>やつ</sup>  
だけど

球磨川<sup>くまがわ</sup>禰<sup>ね</sup>は

何も<sup>なに</sup>考<sup>かん</sup>えてない  
奴<sup>やつ</sup>じゃないよ  
きつと

だい はこ  
第175箱  
リアルイーター  
「正喰者」

「……」

そして何も<sup>なに</sup>  
考<sup>かん</sup>えてない奴<sup>やつ</sup>が  
こいつなんだな…

だね  
まあ…

そう…



エイプリルフライ・タシモン  
「安心大嘘憑き」  
……」

球磨川先輩  
なんですか  
それ……」

「あはは」  
「まあ慌てるなよ」  
「過負荷同士の  
貴相なバトルだ」

「せめて舞台くらいは  
週刊少年ジャンプっぽく  
演出して  
盛り上げよう」  
「ぜ」



う……うわ  
とっ

とっ

ととと……

「気をつけなよ  
足を滑らせたら  
硫黄の海——」

「ではないけれど」  
「尖ってなくても  
自重で螺子は  
十分刺さるぜ」

「尖ってない分  
より痛い  
かもね」





の森...

足喰...



落ちつけ



球磨川の狙いは  
見え透いてる

「よ」

乗せられるな  
煙に巻かれるな

「ほいっと」

「なーんて！」  
『今時週刊少年  
ジャンプでも』

『この手のバトルは  
見なくなったかな?』

『名付けて闘場』  
『足喰の森!』

「安心大喧嘩」とか  
足喰の森とか  
いつものハツタリ  
球磨川節だ  
この男は  
あたしとともに  
バトルするつもりなんてない

こいつはただ  
あたしに使わせ  
たいんだ

スキル  
「足喰者」を!!





「大嘘憑き」を——  
取り返しのつかないスキル  
取り返しのつくスキルに！



他人の視界を覗くスキル  
「欲視力」を  
己の限界を覗くスキル  
「全吉モデル」に作り変えたように



パワーのスキル  
「知られざる英雄」を  
スピードのスキル  
「光化静翔」に作り変えたように

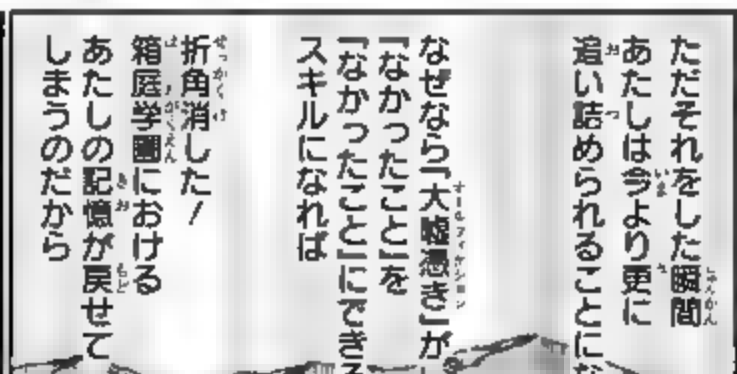


さっき「なかつたこと」に  
された人吉を助けるためには  
そうするしかない

「大嘘憑き」を  
「なかつたこと」にしたことさえ  
「なかつたこと」にできる  
スキルに作り変えるしか！



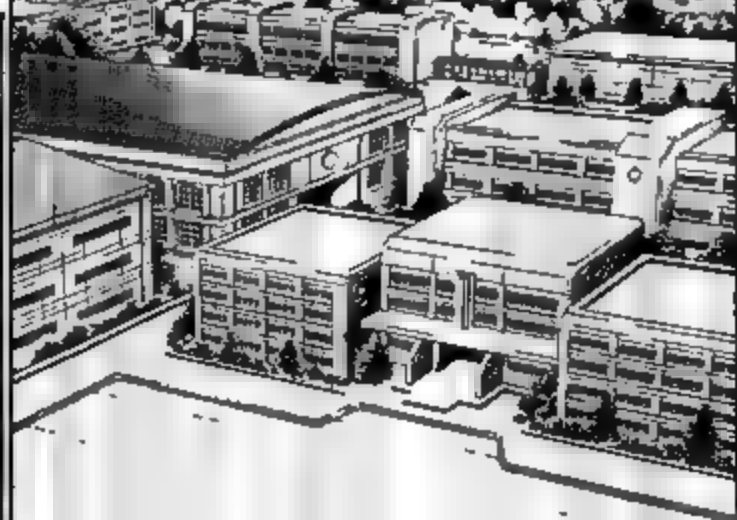
このアイディアを  
出したのはたぶん  
めだかちゃん  
なんだろうけど  
それを強要するために  
人吉を使ってくる  
なんて



ただそれをした瞬間  
あたしは今より更に  
追い詰められることになる  
なぜなら「大嘘憑き」が  
「なかつたこと」を  
「なかつたこと」にできる  
スキルになれば  
折角消した！  
箱庭学園における  
あたしの記憶が戻して  
しまうのだから



えげつない戦略だよ  
あたしじゃなきゃあ  
引かなかったかもね  
だけど  
球磨川先輩





戦略はバレたら

もう戦略じゃ  
ないんだよ!!



「うおっと」

「う」



「おいおい  
不知火ちゃん  
何？」

「ひょっとして怒りで  
スーパーパーパワーに  
目覚めてる？」

「カブトムシより  
弱いって設定は  
どこに行ったのさ」



「弱いですよ  
ですけどそれでも  
あたしは強い奴を  
喰ってきたんです」

「強肉弱食  
つつつてね!!」



!?



あなたは弱いから  
まずそうだけど！

もぐもぐ！

食べてあげますよ  
球磨川先輩！！



ぐっ…  
足で首を  
絞めるとは…

紅かけがえ  
黒神家分家  
紅家の娘ともあろう者が  
随分とはしたないな

後ろから見たら  
パンツ丸見え  
なんじゃないのか？



くす！  
はしたないとか  
めだか様

変態一族の  
生粹である  
あなたに言われたくは  
ありませんって

くくっ…  
これは一本  
とられたな

ならば  
ここは二丁

女の子らしい  
攻撃でも  
してみるか

女の子  
らしい…

攻撃…？











私が<sup>わたし</sup>  
800人<sup>にん</sup>いる

それが私の<sup>わたし</sup>  
スタイルです!







言っときますけど  
あなたが得意の  
分身の術とかじゃ  
ないですよ？

本体を倒せば  
残りは消えるとか  
そういうことも  
ないです

つまり私達  
全員を倒すまで

あなたは  
奥博士の  
ところには  
行けません☆



……  
くくく

いや  
笑ってすまん  
確かに

足止めには最適の  
スタイルだな

だが私を相手に  
800人とはちと  
心許ないのでは  
ないか？

私は  
黒神めだか

かつて1500人超を  
相手に綱引きで  
勝った女だぞ！



ええ  
そうですね

私も800人では  
心許ないと  
思います

だから  
嘘に嘘を

重ねました

嘘に嘘を……？

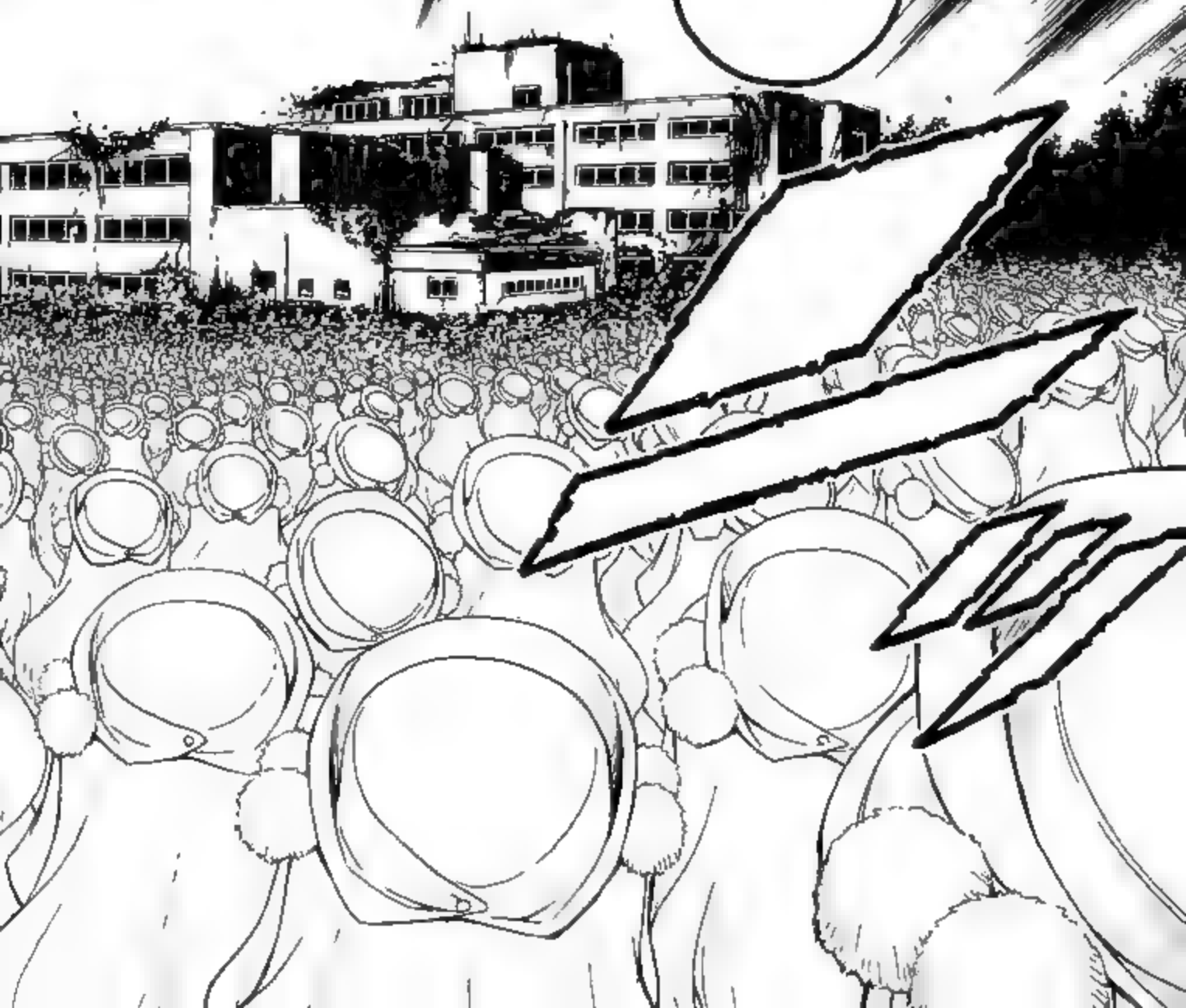
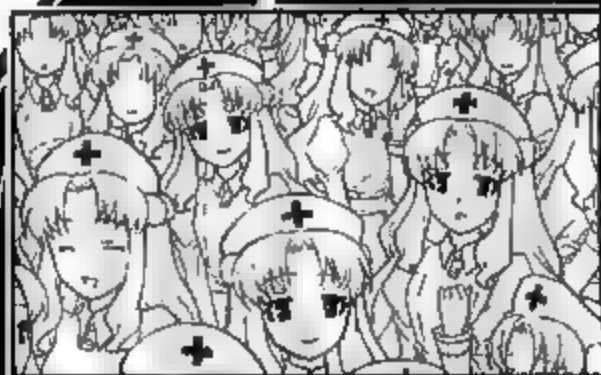
ってまさか  
貴様(達)……

はい  
☆



800  
×  
800

で













「ただ今(いま)はもう  
そんな小さなことは  
どうでもいい！」

「今はただ  
不知火(しらぬい)ちゃん」  
「僕はきみと正々堂々  
闘(たたか)えることが  
嬉しいんだよ！」

「僕はきみと戦(たたか)うために  
生まれてきたのかも  
しれない！」

騙(だま)されるないらつくな  
落(お)とどころを探(さが)りながら  
戦(たたか)ってるんだこいつは！

「安心(あんしん)大陸(たいりく)愚(ぐ)木(ぼき)」とやらを  
ここまで二度(にど)も使(つか)ってないのが  
いい証拠(しるし)だ！！



あたしを煽(あお)って  
危機感(ききかん)を刺激(し)して  
里心(さとこころ)を起(おこ)すのを  
期待(きだい)してるだけ  
あたしが箱庭学園(はこにわがくえん)に  
帰(かえ)りたがるのを  
期待(きだい)してるだけだ  
これ(こ)れがよがしに  
退路(たいろ)を復活(ふくたつ)させて  
そんな手に乗(の)る  
あたじかよ！

あたしは  
ひねくれ者(もの)なんだ

これ以上本音(ほんね)は  
引き出(ひきだ)させない！！



……  
人吉(ひんきち)を助(たす)けるために  
「正戦者(せいせんか)」で「大陸(たいりく)愚(ぐ)木(ぼき)」を  
「取り返(と)し」のつくスキルに  
作り変(か)える——ただし

直前(ちくぜん)の一回(いっかい)に限り  
復元(ふくげん)可能(かふ)という  
細かい条件(じょうけん)付きだ！

それなら人吉(ひんきち)は戻るけれど  
学園(がくえん)に私の居場所(ゐばしょ)を  
戻(もど)すことはできない！

その後(そののち)お前の悪行(あくこう)を理由(りゆう)に  
めだかちゃん達(たち)を追(お)い返(かえ)す！  
さすがに人吉(ひんきち)を危険(きけん)に晒(さら)してまで  
めだかちゃんもあたしに  
こたわりはしないはず

それで話は——





打ち切りって  
奴だよ!!

球磨川先輩!!

「……」  
「おいおい  
やけになるもんじゃ  
ないぜ」

「そいつは僕の  
専売特許だ」

「足場が悪いからって  
空中戦にかけようと  
しても」

「僕がそれに  
付き合う理由は  
ないんだよ」

!?

「そして不要な  
跳躍の結果として」  
「明白な着地点を」  
「否落下点を」

「こともあろうか  
僕に晒す」

「僕はただ落下点を  
目掛けて螺子込む  
だけさあ——」

「僕の……  
えっとそう」

「勇気とか愛とか  
そんな一撃を!!」









隙る隙るは  
苦手ですけどね

落ちるくらいなら  
できるんですよ  
あたしにも!

落下点に入ってくれて  
ありがとう!



「は」

「しまっ」



『ぎやああああああ  
あああああああ!!』



憧れのジャンプバトルを  
体験できて  
よかったですね

じゃ盛り上げも  
盛り付けも  
完了ってことで

いただきますよ  
球磨川先輩



お箸<sup>はし</sup>やフオークも  
文化<sup>ぶんか</sup>だけど

やっぱり食事<sup>しきし</sup>は  
手づかみ  
だよなえ

食<sup>く</sup>らいな—  
いや食<sup>く</sup>らうよ

ス・キ・ル・を・  
喰<sup>く</sup>い改<sup>あらた</sup>めるス・キ・ル

リアルイーター  
『正喰者』!!



なんとなくの  
ナンバリング。

No.0 杠家



No.1 潜木家



No.2 寿家



No.3 桃園家



No.4 (欠番・鶴喰家)



No.5 贄波家



No.6 叶野家





スキルを  
喰い改めるスキル

『正喰者』  
リアルイーター

生前の安心院なじみ  
評して曰く

『この世でもっとも  
忌まわしいスキル』



他人の特技を  
属性や過程を無視して  
違うものへと書き換え  
作り変えてしまう  
スキルは

箱庭学園の政治を  
裏から操作していた  
不知火半袖

実に彼女らしい  
スキルであると言えた

『スキルを作るスキル』の  
使い手  
不知火半袖のありがたを

もっとも色濃く  
受け継いだ  
バックアップ

第176箱 「許す」

不知火の里において  
そんな彼女が  
獅子目言彦の後継者に  
選ばれたのは  
ならば必然でもあったが

しかし他人のスキルを  
いわば個性を  
書き換えられてしまう

彼女が他人に対して  
距離を置くように  
なったのも  
また必然であった

さておき  
忌むべきスキル  
『正喰者』は  
安心院なじみ亡き今

獅子目言彦を除けば  
誰をも凌駕する  
付け入る隙のない  
スキルである



ただし。

それは  
もちろん

はっとう  
発動すれば—  
はなし  
の話だが。

はこ  
第176箱 「許す」









はあっはあっ  
はあっはあっ…  
馬鹿にしやがって…

「安心大嘘憑き」が  
どうか…

全部フエイクか！  
あたしはフィールドに  
立った時点で—

「そう」  
「既に僕の  
手の内さ」

「不知火  
ちゃん」

「化かし合いには  
随分自信があった  
みたいけど」

「馬鹿し合い  
なら  
僕の方が」

「二枚上手だった  
みたいだね。」

「こんなんで  
勝ったつもりかよ  
球磨川先輩」

「だけど  
この戦い  
どうサゲる  
つもりだ？」

「あたしが『正喰者』を  
使えなきゃ—  
人吉を助けられない  
だろうが！」



「おいおいどうして  
僕が善吉ちゃんを  
助けなきゃいけない  
んだよ」

「てゆーか  
善吉ちゃんって  
誰だっけ？」  
「記憶にないなあ」

「僕がめだかちゃんに  
助けてくれと頼まれたのは  
きみだけで」  
「その善なんとかちゃん  
とやらじや  
ないからねえ」

「きみを封印した  
時点で僕の仕事は  
おしまいさ」

!?

「さあ帰ろうぜ  
不知火ちゃん」  
「僕達の箱庭学園に！」

「きみの思い出は  
皆から永遠に消えた  
ままだけとなあに  
気にすることはない」

「思い出なんて  
また一から作れば  
いいじゃないか！」

「人間は何度だって  
やり直すことが  
できるんだから！」

はっ……  
見え見えのハッタリだ！  
騙してあたしの心を  
折ろうとしているだけだ！  
本当は人吉を見捨てるつもり  
なんじゃない癖に——

……

……  
あたしが  
そんな尻にかかるかよ！  
こんな奴に泣きを入れたり  
するもんか  
大体人吉なんて





う

ああああ  
あああ~~~~

ごう

ごう

ごめんな  
ぎい~~~~



あたしが悪<sup>わる</sup>かった  
です~~~~

あたしの  
負けです~~~~

ひとよし  
たす  
人吉を助けて  
ください~~~~

あたしが  
めだかちゃんと  
喧嘩<sup>けんか</sup>したときは

あいつはいつも  
あたしを  
庇<sup>かば</sup>ってくれてた

あたしが  
敵<sup>てき</sup>に回<sup>まわ</sup>った  
ときでさえ

あいつはあたしを  
信<sup>しん</sup>じてくれてた



あたしは  
人吉を――

「駄目  
だねえ。」

「またそんな  
嘘をついて」  
「演技をして」

「僕を騙そうと  
するんだから」  
「もういいんだって  
そういうのは！」

「それにこれは  
ゲームじゃないんだ」  
「負けを認めたくらいで  
負けられると思うな」

「あと五、六本  
「却本作り」を  
螺子込んで」

「涙さえ流せないほど  
封印してやるぜ  
不知火半袖――!!」

ああ、  
そうだよな、  
あれだけ嘘を  
ついてきた  
あたしが  
今更許されるはずが  
ないよね

あたしが悪かったし  
相手が悪かったね

それに  
相手を間違えたよ  
謝る相手は  
球磨川先輩じゃなかった

友達じゃないなんて嘘をついて

ごめんな

人吉



許<sup>ゆる</sup>す<sup>る</sup>!!







球磨川先輩  
あんたのやりたかった  
ことは  
よくわかるんだが

だけど  
とはいえ  
一発だけ

殴っても  
いいよな？



「ふっ…」  
「いいだろう」

「だが善吉ちゃん  
これだけは  
言っておく」

「また」





『勝<sup>か</sup>てなかつ…!!』













里に迎えに来て  
くれたとき  
嬉しかった！

箱庭学園に  
戻りたい！

普通の高校生  
みたいに遊びたい！

この一年間  
みんなで  
いたから  
楽しかった！

お別れするとき  
寂しかった！

言彦なんか  
継ぎたくない！  
あたしがいなくなる  
なんて嫌だ！

あんな変態と  
結婚したくない！

助けて！！

……お前が  
大好きだ

ずっと友達で  
いて欲しい。





ああ

俺も大好きだよ  
不知火

いつまでもつるんで  
馬鹿やってこーぜ



おれ



「はっはっ  
はっはっ」

「無事仲直り  
できたみたいだね」

「でも僕には  
こうなることは  
最初から  
わかっていたよ」

「だってほら最初僕が  
皆から不知火ちゃんの  
記憶を消したとき」

「善吉ちゃんだけは  
忘れずに覚えて  
いたじゃない？」



「あれは不知火ちゃんの  
学園への思いが原因だと  
言っただけだよ」

「きみ達二人の  
お互いへの思いも  
あったからこそ」

「劣化大嘘憑き」の効果が  
なかったんだと  
僕は信じてたんだよ」

「さあ！その抱擁に  
僕も混ぜておくれよ！」

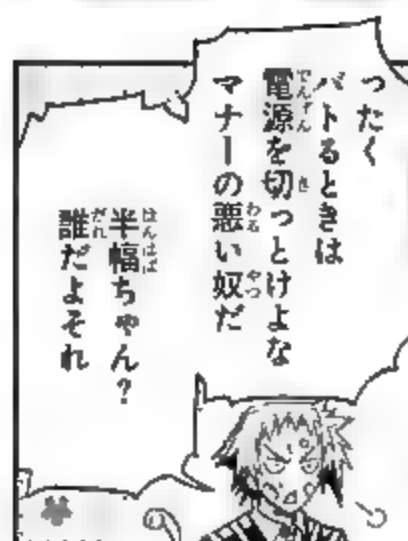
「僕達は  
家族だ!!」













はんそで  
半袖！

いま  
今そつちで  
なに  
何が起こつて  
お  
っている？！



.....  
ごめん  
連絡機器を  
取り上げられてて

それに  
怪偶と蜃気郎を  
人質に取られて  
定時連絡できなかった

だけど  
丁度よかった  
聞いてくれ

今回の仕事  
だけど

奥博士はあたしを  
影武者にするつもり  
なんて――



なかつた

やっぱり

そうなのか.....

「やっぱり」？  
やっぱりって  
どういふことだよ  
帯！

まさか何か  
あったのか？

里の皆は無事  
なんだろうな？

ああ無事だとも！  
こっちは心配するな  
だけでそつちに――



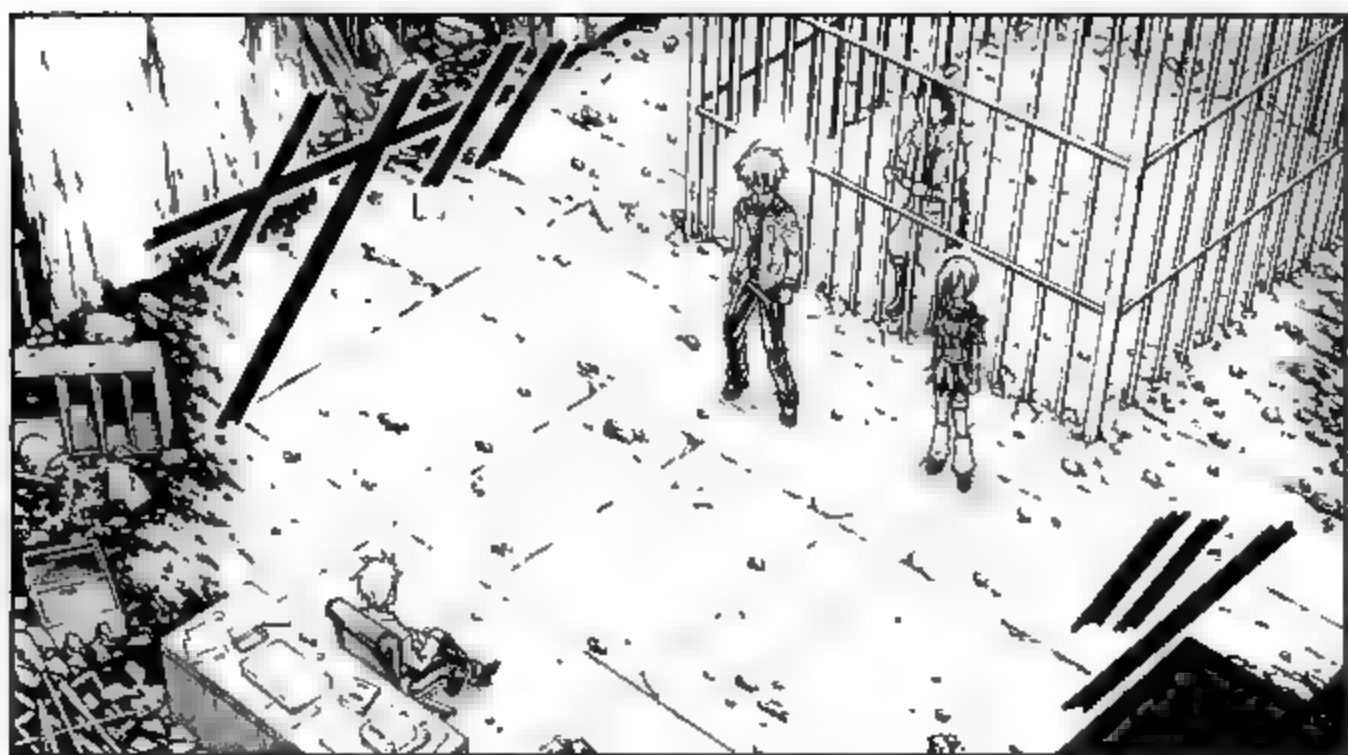


言彦<sup>いひこ</sup>が  
行<sup>い</sup>った!!

逃<sup>に</sup>げろ!!









気のせい  
でしょうか…



私の無傷伝説が  
更に更新された  
ような気が…！







しらぬいはんてん おれ こんやくしゃこうざ  
不知火半纏のどうして俺が婚約者講座①

本当にどうして俺がって感じだが、まあいいだろう。婚約者というか、もう元婚約者だかな。「消去しりとり」では大した見せ場もなく退場したと見えた寿常套だが、しかしそのスタイルの凶悪さから考えると、桃園喪々がスタイルの使用を禁ずる「消去しりとり」を漆黒宴決勝のゲームに選んだのは、この女の動きを制限するためというのもあったのかもしれない。まったく色々考える女だ——色々考え過ぎたとも言えるがな。幼い言葉で話すことによって相手を幼くする。まあそれだけなら誰にでも使えるスタイル——言葉の使いかたと言えよう。とすると、逆に未熟な相手を一人前に扱うことで、一人前に仕立て上げるというスタイルもあるのかもしれない。



じふじょうとう  
寿常套  
じふけ だいひょう  
寿家代表  
どうよう よう つか  
童謡(幼)使い



しらぬいはんてん なに し しらぬい きとこうぞ  
不知火半纏の何も知らぬい不知火の里講座①

俺は自分の「スキルを作るスキル」に特に名前をつけてはいない——つける必要を感じないからだ。名前をつけるという行為は、区別するための方策だ——他に似たものがないのなら、区別する意味がない。だが、俺のバックアップである半袖のスキル「正喰者」は、使いかた次第では、俺のそれに近付いてくるのかもしれない。それくらい不知火半袖という俺の末裔は、俺を色濃く受け継いでいる。まあ気取った言い方をするなら、不知火の里のエリートと言ったところか。ただしそれゆえに次世代の獅子目言彦を担うことになったのは皮肉、とも言うべきなのか？ 優秀であることが決してプラスには働かない、マイナスになることもあるという好例かな。もっとも、半袖が球磨川禊と「同じ」になったのは、黒神めだかを白黒反転させたからというのもあるのだが。



しらぬいはんそで  
不知火半袖  
一年マイナス十三組  
リアルイーター  
『正喰者』



しらぬいはんてん なに し しらぬい きところゞ  
不知火半纏の何も知らぬい不知火の里講座②

帯という通称は、つまり「不知火家を束ねる」という役職が、そのまま通称になってしまった感じだ——今となっては里には本名で呼ぶ奴はほとんどいないけれど、「半」の字を継いでいるところからわかるように、半袖ほどじゃないにしても、こいつも俺という悪平等を、濃厚に受け継いでいる。こいつが言彦を継いでいても、案外おかしくなかったかもな——もっとも、現代の言彦を継いだ者はかなり優秀な「不知火」だったようなので、半幅は自ら裏方に回ったようだ。ただでさえ裏方仕事の不知火の、更に裏方とは。どれだけ照れ屋さんなんだと言いたくもなるが。黒神の拳を躲しているが、格闘能力が高いわけではない。ありゃあ不知火の里の人間なら誰でもできる特技みたいなものだ。言彦に武器扱いされても生きてるところを見ると、それなりにタフなんだろうが。



しらぬいはんはぼ  
不知火半幅  
しらぬい けふるかぶ  
不知火家古株  
おび  
帯



しらぬいはんでん なに し しらぬい さとこうぞ  
不知火半纏の何も知らぬい不知火の里講座③

しらぬい さと にんげん きほんてき くろかみ け かんけいしゃ かげむしや つと なりわい  
不知火の里の人間は、基本的に黒神家関係者の影武者を勤めることを生業とし  
ていて、しらぬい袴が黒神舵樹の代理で箱庭学園の理事長を務めていることは、  
なじみが既に述べた通りだ。まあプラスコ計画関係で、色々闇の部分を持たな  
いでもない箱庭学園だから、黒神グループ、黒神家的には表立って支援できな  
かったというところか。そのために、黒神グループと対応するしらぬい財団なる  
ものもあって、しらぬい袴はその総帥だ。とは言えこの男、黒神舵樹よりは教  
育者としての理念の強い人物でもある。わけあって———というか仕事で箱庭学  
園に生徒として通っていた頃、彼は級友の死を経験していて、その辺が、彼が  
プラスコ計画を推進していく契機となったようだ。まあ人にはそれぞれドラマ  
があるということだ。黒神めだかやしらぬい半袖が経験しているものだけが物語  
ではない。当たり前だがな。



しらぬいはかま  
不知火袴  
はこにわがくえん り じちよう  
箱庭学園理事長  
しらぬいざいだんそうすい  
不知火財団総帥



めだかボックス

第3回

キャラクター人気投票

結果  
大発表!!

第3位

人吉善吉

885票

第2位

阿久根高貴

1084票



第5位

名瀬天歌 (黒神くじら)

725票

第1位

球磨川禊

2824票



第4位

江迎怒江

735票



第8位

不知火半袖

487票



第7位

安心院なじみ

514票



第6位

黒神めだか

522票



|      |             |     |      |        |      |
|------|-------------|-----|------|--------|------|
| 第44位 | 八人ヶ岳十字花     | 20票 | 第9位  | 宗像形    | 483票 |
| 第46位 | 飯塚食人        | 18票 | 第10位 | 与次郎次葉  | 331票 |
| 第47位 | 潜木怪偏        | 17票 | 第11位 | 雲仙冥加   | 291票 |
| 第48位 | 喉ノ浦さなぎ      | 16票 | 第12位 | 喜界島もがな | 286票 |
|      | 机理知戯        | 16票 | 第13位 | 財部依真   | 171票 |
| 第50位 | 桃園幻実        | 14票 | 第14位 | 蝶ヶ崎蛾々丸 | 169票 |
| 第51位 | 十二町矢文       | 13票 | 第15位 | 日之影空洞  | 140票 |
|      | 寿蜚氣郎        | 13票 |      | 大刀洗斬子  | 140票 |
|      | 棕枝閨         | 13票 | 第17位 | 赤青黄    | 128票 |
| 第54位 | 行橋末造        | 12票 | 第18位 | 賢波生煮   | 127票 |
| 第55位 | 上無津呂杖       | 11票 | 第19位 | 雲仙冥利   | 111票 |
|      | 賢波錯悟        | 11票 | 第20位 | 叶野遂    | 109票 |
|      | 叶野仮輝        | 11票 | 第21位 | 鶴喰隅    | 93票  |
| 第58位 | 高千穂仕種       | 10票 | 第22位 | 古賀いたみ  | 87票  |
|      | 希望が丘水晶      | 10票 | 第23位 | 久々原滅私  | 86票  |
| 第60位 | 西尾維新        | 9票  | 第24位 | 鬼瀬針音   | 62票  |
| 第61位 | 杠かけがえ(婚約者B) | 8票  | 第25位 | 人吉瞳    | 46票  |
|      | 寿常套(婚約者C)   | 8票  | 第26位 | 長者原融道  | 44票  |
| 第63位 | 喜々津嬉々       | 7票  | 第27位 | 有明     | 42票  |
|      | 蛇籠鮑         | 7票  | 第28位 | 鰐塚処理   | 41票  |
| 第65位 | 指宿          | 5票  | 第29位 | 潜木もぐら  | 40票  |
| 第66位 | 湯前音眼        | 4票  | 第30位 | 都城王土   | 39票  |
|      | 上峰書子        | 4票  | 第31位 | 鍋島猫美   | 37票  |
|      | 般若寺憂        | 4票  | 第32位 | 廻栖野うずめ | 35票  |
|      | 城南          | 4票  | 第33位 | 糸島軍規   | 32票  |
| 第70位 | 阿蘇短冊        | 3票  | 第34位 | 黒神真黒   | 31票  |
|      | 呼子笛         | 3票  | 第35位 | 須木奈佐木咲 | 27票  |
|      | 牛深柄春        | 3票  | 第36位 | 虎居碎    | 26票  |
|      | 対馬右脳&対馬左脳   | 3票  |      | 暁月あきら  | 26票  |
|      | 百町破魔矢       | 3票  | 第38位 | 志布志飛沫  | 25票  |
|      | 鶴御崎山海       | 3票  |      | 米良孤吞   | 25票  |
|      | 兎洞武器子       | 3票  | 第40位 | 諫早     | 24票  |
|      | 八代          | 3票  | 第41位 | 平戸ロイヤル | 21票  |
|      | 種子島         | 3票  |      | 不老山ぞめき | 21票  |
|      | 桃園喪々(婚約者A)  | 3票  |      | 杠偽造    | 21票  |
|      | 吉野ヶ里        | 3票  | 第44位 | 不知火半纏  | 20票  |

その他の  
少数票

★坂之上替★木金コンビ★不知火袴★嬉野★黒神舵樹  
★鶴喰泉★善吉が描いた書き初め★門司★湯布院  
★球磨川のポケットに潜り込んだジョーカー etc.

※ WJ2012年49号に掲載されたものに、発表されなかった順位を加え再構成しました。





## めだかボックス

20 巻

西尾維新

© 西尾維新 2013, 2013

暁月あきら

© 暁月あきら 2013, 2013

初版発行 2013 年

デジタル版発行 2013 年

発行所 集英社

<http://www.shueisha.co.jp>

この作品は、デジタル配信用に再編集を行ったものです。

本作品の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、改竄、公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、法律で禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。